

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—平成27年度実績—



平成28年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	7
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	12
自らの命を守るための防災教育の推進	17
いじめを許さない学校づくりの推進	19
一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、 特別支援教育の推進	21
健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	23
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】	24
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	29
国際理解のための学習や事業の推進	31
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	32
文化財の保存・継承活用の推進	33
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	35
3 学識経験者の意見	37
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	39

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取り組みの方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定しました。

- 吉田 剛 氏 【専門領域】 カリキュラム研究 学校教育学
【研究テーマ】 問題解決/価値判断/意思決定などの授業理論と
経営論 カリキュラム開発・経営論
シティズンシップ教育論 教育経営論
【現在】 宮城教育大学教授（社会科教育講座所属）
- 永井 伸幸 氏 【専門領域】 視覚障害学
【研究テーマ】 視覚障害
【現在】 宮城教育大学准教授（特別支援教育講座所属）

(3) 点検及び評価の対象

平成27年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

平成27年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造をめざし、次代を担う子どもたちの創造性、自主性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術
- 楽しさと活力ある生涯スポーツ

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 確かな学力を育成する
- 豊かな心を育む
- 心身の健康と体力の向上を図る

めざす『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の推進
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するため、35人を標準とする学級編制の実施 ② 中学校における少人数によるきめ細かな学習指導の推進 ③ 個性を伸ばし児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための学校教諭や補助員の配置 ④ 市立学校再編計画（後期計画）に基づき、学校再編の推進と教育環境整備の推進 ⑤ 幼稚園の3年保育の実現 ⑥ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑦ 幼児教育の振興を図るため、保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 経済的理由により就学困難な児童生徒に対する学用品の援助と就学機会の確保 ⑨ 特別支援教育の普及奨励を図るため、特別支援学級に通級している保護者の経済的負担の軽減 ⑩ 通学における利便と安全確保を図るため、遠距離通学の幼児児童生徒への通学支援 ⑪ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施と結果の公表 ⑫ 豊かな自然環境や小規模の特徴を生かした小規模特認校制度と義務教育9年間を見通した小中一貫校の推進
------------------------------	--

【確かな学力を育成する】

学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	① 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進 ② ICT（インターネットなどの情報通信技術）を活用した授業により学力向上を図るためのタブレットパソコンの配備 ③ 落ち着いた学習環境と思いやりのある人間関係づくりのため、Q-U調査の実施と、その内容を理解し、学級集団のアセスメントとその具体的対応策の検討による、教員の指導力向上の推進 ④ 小学校算数・中学校数学における児童生徒の思考力等を育成するために、教員の指導力向上の推進 ⑤ 家庭学習のポイント等を学ぶため、保護者や生徒を対象とした家庭学習講座の実施 ⑥ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上、自主的学習の習慣化を図るための学府くりはら塾の実施 ⑦ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用する力を身に付けさせるための学習会の実施 ⑧ 幼稚園、小学校、中学校の教職員を対象とした学力向上に関する講演会の実施 ⑨ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ⑩ 全国及び県学力・学習状況調査の結果の分析とその活用 ⑪ 児童生徒の学力の状況を把握し課題を解決するため、市独自の標準学力テストの実施 ⑫ 国際理解を深め、英語教育を充実するためのALTの配置と英語活用事業の実施 ⑬ 国際的視野をもたせ、児童生徒の英会話力を向上させるための事業の実施 ⑭ コミュニケーション能力の素地を養い外国語活動を充実するための研修会の実施 ⑮ 教育公務員としての使命と職責への自覚を促し地域理解をめざした初任者対象研修会の実施
自らの命を守るための防災教育の推進	① 危険を予知し回避する能力を高めるため、防災教育の推進 ② 防災の基礎となる基礎的な知識に関する指導の充実 ③ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化

【豊かな心を育む】

いじめを許さない学校づくりの推進	① いじめ問題について教職員間の共通理解を図り、学校全体での組織的な取り組み ② いじめ等の問題解決のための警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめの防止及び早期発見のための対策や調査研究及び検証と、重大事態の調査の実施 ④ いじめや不登校などの問題行動の未然防止、早期発見・早期対応につながる支援
一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進 ② 幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続を図るためのカリキュラムの作成及び連携事業の実施 ③ 豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業の実施 ④ 不登校に悩む児童生徒の学校復帰をめざし、基礎学力を身に付けるための支援 ⑤ 児童生徒の理解を深め、自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進と関係機関との連携 ⑥ 特別支援コーディネーターのスキルアップと校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 児童生徒の教育的ニーズを把握し、生活や学習の困難を改善するための適切な支援体制の構築

【心身の健康と体力の向上を図る】

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 望ましい食習慣の確立とバランスの取れた食生活や食育の推進 ③ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ④ 幼児児童生徒及び教職員の健康の促進のための健診事業
---------------------	---

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供 【学びの連続性】	【家庭教育の支援】 ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	【青少年期の活動支援】 ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援 ⑦ 青年教育推進体制の整備
	【成年期の活動支援】 ① 学習、交流活動の機会と場の提供 ② 成人教育体制の整備 ③ 指導者の育成と活動の場の提供 ④ 生涯学習団体等の育成、支援 ⑤ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の展開

生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と適正配置 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進
国際理解のための学習や事業の推進	① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 学校、地域と連携した交流活動の推進 ④ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした芸術文化の推進】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 伝統文化の継承と普及活動への支援 ⑤ 文化施設の設備充実と環境整備 ⑥ 栗原市合併 10 周年記念事業の開催
--------------------------	--

【文化財の保存と活用推進】

文化財の保存・継承活用の推進	① 地域の文化財の調査、保存活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実
----------------	--

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成 ⑤ 学校との連携強化
------------------------	--

点検及び評価項目一覧（平成２７年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、 生きる力を育む学校	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「少人数指導事業」	B
			2 「学校活性化プラン事業」	B
			3 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」	C
			4 「幼保一体化施設整備事業」	B
			5 「幼稚園預かり保育事業」	A
	確かな学力を育成する	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	6 「教育研究センター事業」	B
			7 「Ｑ－Ｕ（学級生活満足度尺度）調査」	B
			8 「学力向上支援事業」	C
			9 「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	B
		自らの命を守るための防災教育の推進	10 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	B
			11 「防災主任研修会」	B
	豊かな心を育む	いじめを許さない学校づくりの推進	12 「地域と連携した避難訓練の推進」	B
			13 「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」	B
		一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	14 「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」	B
			15 「志教育支援事業」	B
	心身の健康と体力の向上を図る	健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	16 「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」	B
			17 「全国体力・運動能力調査の結果分析」	B
共に助け合い潤いに満ちた地域社会	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】	18 「家庭教育学級」	B
			19 「ブックスタート事業」	B
			20 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	B
			21 「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」	B
			22 「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」	B
		生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	23 「図書館まつり」	B
			24 「協働教育推進事業」	B
		国際理解のための学習や事業の推進	25 「青空大使派遣事業」	B
地域の特性を生かした かおり高い文化芸術	地域に根ざした文化芸術の推進	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	26 「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチほか各種芸術鑑賞会」	B
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・継承活用の推進	27 「埋蔵文化財発掘調査事業」	B
			28 「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B
楽しさと活力ある生涯スポーツ	心身の健康保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	29 「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」	B
			30 「宮城ヘルシー2015ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」	B

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 学校教育課
1 目的					
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
1「少人数指導事業」					
事業概要及び目標					
中学校において、学級編制とは別に少人数の学習集団を形成し、授業時間数の多い国語、数学、英語などの教科で新たに少人数指導教諭（講師）を配置し、きめ細かな指導を行い、生徒の学力向上を図る。					
3 平成27年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
教科の少人数指導を実施するため、少人数指導教諭を採用した。配置された学校の教員からは、生徒一人一人の学習状況の把握が確実になり、学習の定着が不十分な生徒に、適切に指導ができたなどの声が聞かれた。また、生徒がグループ学習ではそれぞれのグループの実態に応じた指導が容易になり、生徒個々の考えや疑問に対応した授業づくりができた。 少人数指導教諭は、当初4人を採用する予定であったが、3人の採用となった。また、数学・英語の教諭が採用できなかった。					
平成27年度 配置校及び採用者数					
学校名		教科	採用者数		
若柳中学校		国語	1人		
栗原西中学校		社会	1人		
瀬峰中学校		国語	1人		
合 計			3人		
評 価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針					
予定していた少人数指導教諭の人数の確保ができなかったことから、少人数指導教諭の確保策を検討する必要がある。			➡	現在の募集期間は、2月の1ヶ月間の期間で募集してるが、早めの募集や、2次募集などを行い、必要な教諭の確保に努める。	
5 学識経験者の意見					
予定の人数、教科担当を確保できなかった点は残念であるが、少人数指導の効果を学校も生徒も感じていると判断できる。また、成果として学力面だけでなく、生徒の実態把握にも役立っている様子が見える。継続して実施するとともに、多教科の担当教諭の確保に努めていただきたい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 学校教育課
1 目的					
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
2「学校活性化プラン事業」					
事業概要及び目標					
通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置し、児童の学校生活を支援すると共に、個々のケースに応じた、よりきめ細かな学習指導や生活指導を行う。					
3 平成27年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒について、学校と連携を密にしながら、補助員を配置した。また、年度途中においても、学校からの要望に基づき、実施調査等を行い、補助員を配置したことにより、児童生徒の学校生活における安全の確保と生活指導に効果があった。					
その結果、当該児童だけでなく、クラス全体が落ち着いた環境で学習ができるようになった。					
○ 小学校 25人 築館小学校3人 宮野小学校1人 若柳小学校4人 栗駒小学校4人 栗駒南小学校2人 高清水小学校2人 一迫小学校3人 瀬峰小学校1人 鶯沢小学校1人 金成小学校2人 志波姫小学校2人					
○ 中学校 6人 築館中学校2人 若柳中学校1人 栗駒中学校1人 清水中学校1人 栗原西中学校1人					
評価					
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針					
各学校において、支援を要する児童・生徒の人数や様態は毎年度異なることから、必要な支援に要する補助員の人数や支援の在り方などケースに応じた支援方法の検討が必要である。			➡	各学校のニーズに合った支援が出来るように、連携を密にしながら支援していく。	
5 学識経験者の意見					
特別な支援を要する児童生徒への適切な対応は、その児童だけでなく、クラス、学校への支援と言える。実態を正確に把握し、その結果に基づいて配置を行ったことは評価できる。今後も継続して支援にあたりとともに、学年が上がり担任や支援員が変更になる際の適切な引き継ぎにも取り組んでいただきたい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造										
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援												
担当課 学校教育課														
1 目的														
学校教育において、児童生徒一人ひとりが主体的な学習活動を通して、確かな学力を身につけ、集団による教育的機能を発揮しながら、互いに学び合い、尊重し合い、幅広い資質を培う。														
2 具体的事業														
施策を構成する事業														
3「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」														
事業概要及び目標														
学校では教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけ、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという観点から、学級編制において小学校では各学年2学級以上、中学校においては学校全体で9学級以上とする学校再編を推進し、適正規模の確保に努める。														
3 平成27年度の取り組みと自己評価														
取り組みと成果														
栗原市立学校再編計画に基づき、築館地区小学校4校による再編を提案してきたが、児童数の減少や複式学級の増加等の理由から、平成27年4月に富野小学校が学区の組換えにより先行再編を行った。 また、宮野小学校については、再編反対の意向であることから、残る対象校である玉沢小学校と築館小学校の合意形成を整えるとともに、玉沢小学校が希望する平成29年4月の再編に向け準備委員会を設立した。 中学校再編については、高清水中学校と瀬峰中学校の再編を提案しており、早期の再編合意に向け説明会及び意見交換会を行った結果、両校のPTA役員からは、再編に前向きな意見を頂いた。														
【小学校】														
<table><tr><th>学校名</th><th>説明・意見交換会等の状況</th></tr><tr><td>築館小学校</td><td>12/11 保護者説明会（合意）、1/13 地域説明会（合意）</td></tr><tr><td>玉沢小学校</td><td>7/29 地域説明会（合意）</td></tr><tr><td>宮野小学校</td><td>12/ 5 保護者及び地域意見交換会</td></tr><tr><td>富野小学校</td><td>4/ 1 学区の組換えにより築館小学校へ再編</td></tr></table>					学校名	説明・意見交換会等の状況	築館小学校	12/11 保護者説明会（合意）、1/13 地域説明会（合意）	玉沢小学校	7/29 地域説明会（合意）	宮野小学校	12/ 5 保護者及び地域意見交換会	富野小学校	4/ 1 学区の組換えにより築館小学校へ再編
学校名	説明・意見交換会等の状況													
築館小学校	12/11 保護者説明会（合意）、1/13 地域説明会（合意）													
玉沢小学校	7/29 地域説明会（合意）													
宮野小学校	12/ 5 保護者及び地域意見交換会													
富野小学校	4/ 1 学区の組換えにより築館小学校へ再編													
【中学校】														
<table><tr><th>学校名</th><th>説明・意見交換会等の状況</th></tr><tr><td>高清水中学校</td><td>12/ 4 保護者説明会</td></tr><tr><td>瀬峰中学校</td><td>11/ 9 保護者説明会</td></tr></table>					学校名	説明・意見交換会等の状況	高清水中学校	12/ 4 保護者説明会	瀬峰中学校	11/ 9 保護者説明会				
学校名	説明・意見交換会等の状況													
高清水中学校	12/ 4 保護者説明会													
瀬峰中学校	11/ 9 保護者説明会													
評価														
<table><tr><td rowspan="4">C</td><td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</td></tr><tr><td>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</td></tr><tr><td>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）</td></tr><tr><td>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</td></tr></table>					C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）					
C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）													
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）													
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）													
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）													
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針														
<table><tr><td>築館地区小学校再編については、今後、準備委員会で様々な事項の協議決定が予想される。また、高清水及び瀬峰の中学校再編については、再編に前向きな意見を頂いたことから、早期の合意形成が必要となる。</td><td>➡</td><td>築館地区の再編に向けては、専門的な事項の検討などを行う部会を設けて準備を進めていく。また、高清水・瀬峰の中学校再編の合意形成に向けて進めていく。</td></tr></table>					築館地区小学校再編については、今後、準備委員会で様々な事項の協議決定が予想される。また、高清水及び瀬峰の中学校再編については、再編に前向きな意見を頂いたことから、早期の合意形成が必要となる。	➡	築館地区の再編に向けては、専門的な事項の検討などを行う部会を設けて準備を進めていく。また、高清水・瀬峰の中学校再編の合意形成に向けて進めていく。							
築館地区小学校再編については、今後、準備委員会で様々な事項の協議決定が予想される。また、高清水及び瀬峰の中学校再編については、再編に前向きな意見を頂いたことから、早期の合意形成が必要となる。	➡	築館地区の再編に向けては、専門的な事項の検討などを行う部会を設けて準備を進めていく。また、高清水・瀬峰の中学校再編の合意形成に向けて進めていく。												
5 学識経験者の意見														
長期的な人口の変動に伴う統合・廃合による学校再編は全国での課題である。地域の感情もあり簡単に進むことではないと思われるが、合意形成へ向けて丁寧な手続きが求められる。築館地区においては、まず進められる地域から再編を進め、再編後の好ましい姿を示すことによって、地域の理解も得られていくのではないだろうか。														

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造																																												
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 教育総務課 学校教育課																																												
1 目的																																																
市内の各地区によって幼稚園の保育年数に格差があり、幼稚園の受益サービスに違いがあることから、市立幼稚園の保育年数を3年に統一し、充実した幼児教育を行い小学校で学ぶ土台づくりに取り組む。																																																
2 具体的事業																																																
施策を構成する事業																																																
4「幼保一体化施設整備事業」																																																
事業概要及び目標																																																
平成28年4月から全ての市立幼稚園で3年保育を実施するとともに、0～2歳児を保育所、3～5歳児を幼稚園とする栗原市独自の幼児教育・保育の実施に向け、幼稚園児の増加が見込まれることから施設等の環境整備を行う。																																																
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																
取り組みと成果																																																
築館地区の幼稚園はこれまで各幼稚園で1年保育を実施してきたが、地区内幼稚園を1つに再編するための施設整備を行い、平成27年4月から3年保育を実施している。また、栗駒・志波姫両地区についても、地区内1箇所での幼児教育・保育を目指し幼保一体の施設整備を行った。同様に瀬峰地区においても施設整備に伴う建設・敷地造成設計に着手した。更に平成28年4月からの幼稚園3年保育の完全実施に向け、園児の増加が見込まれる若柳・一迫地区において改修・増築等の施設整備を行った。																																																
幼稚園3年保育実現に向けた取組状況																																																
<table><tr><th>地区</th><th>保育年数</th><th>3年保育実施に向けた施設整備状況</th><th>備考</th></tr><tr><td>築館地区</td><td>3年</td><td>平成27年4月開園</td><td></td></tr><tr><td>若柳地区</td><td>3年</td><td>園児増に伴う改修工事</td><td>平成28年4月から使用開始</td></tr><tr><td>栗駒地区</td><td>2年</td><td>幼保一体化施設として整備</td><td>平成28年4月開園</td></tr><tr><td>高清水地区</td><td>3年</td><td>幼保一元化施設</td><td></td></tr><tr><td>一迫地区</td><td>2年</td><td>園児増に伴う増築工事</td><td>平成28年4月から使用開始</td></tr><tr><td>瀬峰地区</td><td>2年</td><td>幼保一体化施設整備に伴う設計着手</td><td>平成30年4月開園予定</td></tr><tr><td>鶯沢地区</td><td>3年</td><td>幼保一元化施設</td><td></td></tr><tr><td>金成地区</td><td>3年</td><td>幼保一元化施設</td><td></td></tr><tr><td>志波姫地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設として整備</td><td>平成28年4月開園</td></tr><tr><td>花山地区</td><td>3年</td><td></td><td></td></tr></table>					地区	保育年数	3年保育実施に向けた施設整備状況	備考	築館地区	3年	平成27年4月開園		若柳地区	3年	園児増に伴う改修工事	平成28年4月から使用開始	栗駒地区	2年	幼保一体化施設として整備	平成28年4月開園	高清水地区	3年	幼保一元化施設		一迫地区	2年	園児増に伴う増築工事	平成28年4月から使用開始	瀬峰地区	2年	幼保一体化施設整備に伴う設計着手	平成30年4月開園予定	鶯沢地区	3年	幼保一元化施設		金成地区	3年	幼保一元化施設		志波姫地区	3年	幼保一体化施設として整備	平成28年4月開園	花山地区	3年		
地区	保育年数	3年保育実施に向けた施設整備状況	備考																																													
築館地区	3年	平成27年4月開園																																														
若柳地区	3年	園児増に伴う改修工事	平成28年4月から使用開始																																													
栗駒地区	2年	幼保一体化施設として整備	平成28年4月開園																																													
高清水地区	3年	幼保一元化施設																																														
一迫地区	2年	園児増に伴う増築工事	平成28年4月から使用開始																																													
瀬峰地区	2年	幼保一体化施設整備に伴う設計着手	平成30年4月開園予定																																													
鶯沢地区	3年	幼保一元化施設																																														
金成地区	3年	幼保一元化施設																																														
志波姫地区	3年	幼保一体化施設として整備	平成28年4月開園																																													
花山地区	3年																																															
評価																																																
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																														
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																
平成28年度から、市内全ての幼稚園で3年保育が実施されることから、学びの土台づくりのための充実した幼児教育を展開する必要がある。			➡	園内研究や、教育研究センターにおける幼稚園教諭の指導力向上のための職務別研修を通じ、学びの土台づくりに向けた幼児教育の充実を図る。																																												
5 学識経験者の意見																																																
施設の整備が進んでいることが伺える。それと併せて人員の確保も課題となってくるだろう。築館地区で3年保育を開始した初年度であり、今後の安定した事業の継続が他地域の参考となる。市内の地区で受けられるサービスの偏りの解消に継続して取り組んでおり、今後に期待したい。																																																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造			
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援				担当課 学校教育課	
1 目的							
市内の各地区によって幼稚園の保育年数に格差があり、幼稚園の受益サービスに違いがあることから、市立幼稚園の保育年数を3年に統一し、充実した幼児教育を行い小学校で学ぶ土台づくりに取り組む。							
2 具体的事業							
施策を構成する事業							
5「幼稚園預かり保育事業」							
事業概要及び目標							
幼稚園の教育時間終了後及び長期休業時において、保育に欠ける園児を対象に、市立7幼稚園で預かり保育を実施する。また、保護者の急病等により一時的に保育に欠ける園児を対象に、一時預かり保育を行う。							
3 平成27年度の取り組みと自己評価							
取り組みと成果							
幼稚園預かり保育については、年々利用者が増加し、また、利用者ニーズも多様化してきていることから、預かり保育のニーズに対応するための体制の整備を図った。また、平成27年度より同時入園の第2子以降については、預かり保育料を無料とし保護者の経済的負担の軽減を図った。							
平成28年3月31日現在							
	預かり保育実施幼稚園	3歳児	4歳児	5歳児	合計	一時預かり延べ人数※1	軽減を受けた園児数※2
1	築館	41人	58人	53人	152人	132人	15人
2	岩ヶ崎		22人	23人	45人	88人	0人
3	尾松		18人	14人	32人	18人	0人
4	一迫		23人	30人	53人	57人	0人
5	瀬峰		10人	7人	17人	89人	0人
6	ふたば	26人	44人	38人	108人	69人	12人
7	花山	0人	0人	1人	1人	48人	0人
	合計	67人	175人	166人	408人	501人	27人
※1 一時預かり延べ人数は、一時預かりを利用した延べ日数とする。							
※2 幼稚園預かり保育に係る同時入園の第2子以降の園児数							
評価							
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）						
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針							
預かり保育の園児の増加と、多様化する預かり保育のニーズに対応するため、きめ細かな事業の展開を行っていく必要がある。				➡	平成28年度から延長保育や土曜日保育を実施し、預かり保育の充実に努めることとしている。		
5 学識経験者の意見							
利用者が年々増加しており、住民のニーズを的確に把握した事業を実施できていると評価できる。第2子以降の預かり料の無料化により、今後の利用者が増加することが期待できる。それゆえ今後は必要な人員と予算の確保が課題となってくるのではないかと。							

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

幼児児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

6「教育研究センター事業」

事業概要及び目標

市立幼稚園、小・中学校の教職員の交流、研修、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、次代を担う人づくり＝「学府くらはら」の着実な実現を図る。

3 平成27年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

平成27年度の事業としては、特に算数・数学において、「授業づくりの課題に応じた研修」と題して、市内小・中学校で教科指導に当たる全教員対象に「授業づくりにおける課題」調査を行い、その結果に基づいた研修会を実施した。その結果、99%の受講者から**肯定的評価（4段階評価）**を得た。なお、その講師としては、県教委において優れた指導力を有すると認めた教員を選定し、研修会後も受講者の悩み等に応じてもらい、お便り等でその回答を発信し、双方向的で継続的な研修ができた。この情報提供も好評であった。

また、平成28年度からの市内全幼稚園での3年保育開始に向け、幼稚園教諭対象の研修会を充実した結果、参加者から高い評価を得ることができた。

研 修 名		開催日	対象	参加人数
学力向上に向けた授業づくり研修	算数・数学研修会①～⑤	7、8、11、12月	小中	70
	外国語活動・英語研修会①②	5月29日	小中	12
	I C T活用研修会①～③	8、11月	小中	20
	言語活動充実研修会（国語）	10月1日	小中	16
	Q-U活用研修会①～③	7月6日、30日	小中	49
	出前Q-U活用研修会（小中各1校に2回）	10、11月の4日	築小・築中	90
指導力向上に向けた職務別研修	初任者・市費教諭（1年目）研修会	8月18日	小中	13
	新任幼稚園長研修会①②	4、11月	幼	20
	幼稚園研究主任研修会①②	4月28日	幼	11
	幼稚園主任・学年主任研修会①②	6、12月	幼小中	25
	市費少人数指導担当教諭・非常勤教諭研修会	8月18日	小中	6
	学校補助員研修会	5月8日	幼小中	45
	新任幼稚園教諭・新任保育士研修会	5月29日	幼	23
	幼稚園5年経過等教員研修会	9月10日	幼	8
管理職研修会	8月17日	幼小中	34	

評 価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成28年度に向けた課題・今後の方針

今後、ニーズが高まるICTを活用した授業づくりを進めるため、教職員のICT活用能力の向上に向けた、研修会等の充実を図る必要がある。

➡

ICT活用研修会を充実させ、より多くの教職員が、ICTを活用した授業づくりを進めるため、ICT担当の特任教授を配置することとしている。

5 学識経験者の意見

教員研修の中心事業として機能していることが伺える。一回話を聞いて終わりではなく、双方向的継続的な研修として取り組んだことは高く評価できる。今後、道徳の教科化、ICTの導入、プログラミング教育の導入といった新しい内容が学校教育に入ってくる。教員が安心・安定して導入できるよう、取り組みが必要ではないだろうか。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校			基本目標	確かな学力を育成する	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成				担当課	学校教育課
1 目的							
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。							
2 具体的事業							
施策を構成する事業							
7「Q-U（学級生活満足度尺度）調査（注1）」							
（注1）心理学者である河村茂雄氏が開発した、観察や面接による主観的な児童生徒理解を補う、児童生徒個々及び学級の状態を客観的にとらえる質問紙調査である。標準化された心理テストであることから、全国平均値が分かり、それと比較・検討することができる。							
事業概要及び目標							
Q-U調査を実施し、子どもたちの学校での満足度（尺度）を把握することにより、いじめ、不登校等の問題行動を事前に把握し、指導することで、やる気のある学級集団づくり、居心地のよい学級集団づくりを目指す。また、年2回実施し、満足度の向上が図られたかどうかを比較することにより、これまでの指導の成果や今後の課題を把握し、さらに改善を図る。							
3 平成27年度の取り組みと自己評価							
取り組みと成果							
市内全ての小・中学校で年2回（5月・11月）実施し、その結果の活用の仕方について、教育研究センターでの集合研修会や小・中学校各1校への出前研修会を実施し普及を図った。 小・中学校とともに全国平均に比べ、「満足群」の割合が高く、「不満足群」の割合が低い結果だった。さらに、5月と11月の比較では、中学1年を除く学年において「満足群」の割合が高くなったことから、おおむね各学校において、調査結果を生かした望ましい学級集団づくりが行われたことがうかがえる。 なお、緊急度の高い「要支援群」の割合は、5月と11月の比較では、小・中学校ともに低くなったが、依然4～6％あり、面談や全校体制での見守り、声掛け等が必要である。							
平成27年度 Q-U調査の結果							
		学級生活満足群(注2)	侵害行為認知群(注3)	非承認群(注4)	学級生活不満足群(注5)	要支援群(注6)	計
小学校 (1回目)	実人数(人)	1,586	355	591	406	131	3,069
	割合	51.6%	11.6%	19.3%	13.2%	4.3%	100.0%
小学校 (2回目)	実人数(人)	1,764	303	527	357	113	3,064
	割合	57.5%	9.9%	17.2%	11.7%	3.7%	100.0%
小学校 (差)	実人数(人)	▲178	△52	△64	△49	△18	
	割合	5.9%	△1.7%	△2.1%	△1.5%	△0.6%	
中学校 (1回目)	実人数(人)	953	190	228	227	96	1,694
	割合	56.2%	11.2%	13.5%	13.4%	5.7%	100.0%
中学校 (2回目)	実人数(人)	997	176	214	211	86	1,684
	割合	59.2%	10.5%	12.7%	12.5%	5.1%	100.0%
中学校 (差)	実人数(人)	▲44	△14	△14	△16	△10	
	割合	3.0%	△0.7%	△0.8%	△0.9%	△0.6%	
評価							
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）						
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）						
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）						
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）						
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針							
Q-U調査結果から、2回目の調査における学級生活満足度の割合が高くなっているが、調査結果の活用等についての理解が十分でないことから、具体的な活用研修会を実施していく必要がある。				➡	今後も引き続きQ-U調査を実施しながら、調査結果のより効果的な活用ができるよう、研修会や、各学校への出前講座などを充実させていく。		
5 学識経験者の意見							
児童生徒の学校への満足度を継続的に捉えて学校・学級づくりに活かしていこうという試みは評価できる。1回目の調査のあと、2回目実施までに、1回目の調査結果に基づいてどのような取り組みを行ったのが示されているとより好ましい。また、単年度の調査ではないので、学年ごとに継続した調査としていくことが期待される。							

(注2)自分の居場所があり意欲的に生活している児童生徒群
 (注3)いじめ等を受けているか、他とトラブルがある可能性が高い児童生徒群
 (注4)いじめ等は受けていないが、認められることが少ない児童生徒群
 (注5)いじめ等を受けているか強い不安傾向をもつ児童生徒群
 (注6)耐えられないいじめ等を受けているか、非常に強い不安傾向をもつ児童生徒群

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成			担当課 学校教育課
1 目的					
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
8「学力向上支援事業」					
事業概要及び目標					
保護者や児童生徒を対象として、家庭学習のポイント等を学ぶための家庭学習会の開催、小・中学校で実施する学習会への支援を行う。また、児童生徒の学力の状況を把握し、課題を解決するため、栗原市単独による標準学力テストなどを実施し、様々な方面からの学力向上策を検討・推進する。					
3 平成27年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
各学校で実施する長期休業中や放課後などの学習会では、小学校9校、中学校2校に支援を行い、学力向上の一助となった。					
平成27年度 学習会支援事業実績					
小学校		築館小学校、宮野小学校、若柳小学校、栗駒小学校、瀬峰小学校、志波姫小学校、花山小学校、栗駒南小学校、鶯沢小学校			
中学校		築館中学校、瀬峰中学校			
標準学力テストを行った結果、小学校では全ての学年、すべての実施教科で全国偏差値平均値50を上回っていたが、中学校では、全ての学年で全国偏差値平均値の50に達していない結果となった。調査結果については、どの分野が劣っているのか分析を行い、その分析結果を各学校に周知し、分かる授業と学びたくなる授業づくりに活かした。					
平成27年度 標準学力テスト実施状況					
	実施学年	実施教科		実施時期	※同時期に5年生は県学力・学習状況調査、6年生は全国学力・学習状況調査があるので、その教科を除いた教科で実施。
1	小学校1・2・3年生	国語・算数		4月中旬	
2	小学校4年生	国語・算数・理科・社会			
3	小学校5年生	理科・社会			
4	小学校6年生	社会			
5	中学校1年生	国語・数学・理科・社会		4月中旬	
6	中学校2年生から3年生	国語・数学・英語・理科・社会			
家庭学習会については、実施時期の調整がつかず開催できなかった。					
評価					
C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針					
学習会支援事業において、実施する学校数が少ないことから、各学校に実施について働きかけていく必要がある。			➡	各学校からの要望を聞き取りながら、学習会について周知し、実施校を増やしていく。	
5 学識経験者の意見					
学習支援事業の結果として、参加した児童生徒の成績がどのように変化していったのかを示すことが、実施校の増加につながるのではないかと。標準学力テストについては一喜一憂する必要は無い。結果報告書の偏差値や標準偏差の説明が不適切であり、データを適切に読み取れているのかについて若干の疑義がある。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する																																					
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課	学校教育課																																				
1 目的																																									
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																									
2 具体的事業																																									
施策を構成する事業																																									
9「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」																																									
事業概要及び目標																																									
家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。 また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施し、自主的学習習慣の形成を図り、学力向上を目指す。																																									
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																									
取り組みと成果																																									
「学府くりはら塾」と「学び支援コーディネーター等配置事業」の実施結果は次の通りである。 今年度は、送迎バスを運行したところ、参加者数が大幅に伸びた。特に中学校の冬の学府くりはら塾では、昨年度に比べ3倍となった。また、それぞれの学習会等では、参加した児童が、自分で立てた目当てを達成しようと、自主学習や思考力を高めるプリント問題に集中して取り組むことができた。 学府くりはら塾に参加した生徒からは、「とても分かりやすかった」「しっかり復習できた」などの意見の他に、取組が良くなったという自らの変容についても自覚できた感想も見られた。																																									
<table><tr><td>事業名</td><td>学府くりはら塾①</td><td>学府くりはら塾②</td></tr><tr><td>実施期間</td><td>8/16～8/20</td><td>12/25～12/27</td></tr><tr><td>場所</td><td>教育研究センター</td><td>教育研究センター</td></tr><tr><td>対象者</td><td>中1～3年</td><td>中3年</td></tr><tr><td>参加者</td><td>512人</td><td>328人</td></tr><tr><td>指導者</td><td>60人</td><td>26人</td></tr></table>						事業名	学府くりはら塾①	学府くりはら塾②	実施期間	8/16～8/20	12/25～12/27	場所	教育研究センター	教育研究センター	対象者	中1～3年	中3年	参加者	512人	328人	指導者	60人	26人																		
事業名	学府くりはら塾①	学府くりはら塾②																																							
実施期間	8/16～8/20	12/25～12/27																																							
場所	教育研究センター	教育研究センター																																							
対象者	中1～3年	中3年																																							
参加者	512人	328人																																							
指導者	60人	26人																																							
<table><tr><td>事業名</td><td>放課後学習会</td><td>週末学習会①</td><td>週末学習会②</td><td>夏休み学習会</td><td>冬休み学習会</td></tr><tr><td>実施期間</td><td>9/14～12/14</td><td>10/17～12/5</td><td>1/30～3/5</td><td>8/20～8/22</td><td>12/25～12/27</td></tr><tr><td>場所</td><td>花山小学校</td><td>栗原文化会館、 若柳公民館 一迫ふれあいホール</td><td>栗原文化会館、 教育研究センター 高清水コミュニティセンター</td><td>栗原文化会館、 金成分庁舎</td><td>栗原文化会館、 金成分庁舎</td></tr><tr><td>対象者</td><td>小3～6年</td><td>小3～6年</td><td>小3～6年</td><td>小3～6年</td><td>小3～6年</td></tr><tr><td>参加者</td><td>91人</td><td>330人</td><td>460人</td><td>477人</td><td>438人</td></tr><tr><td>指導者</td><td>55人</td><td>58人</td><td>49人</td><td>69人</td><td>53人</td></tr></table>						事業名	放課後学習会	週末学習会①	週末学習会②	夏休み学習会	冬休み学習会	実施期間	9/14～12/14	10/17～12/5	1/30～3/5	8/20～8/22	12/25～12/27	場所	花山小学校	栗原文化会館、 若柳公民館 一迫ふれあいホール	栗原文化会館、 教育研究センター 高清水コミュニティセンター	栗原文化会館、 金成分庁舎	栗原文化会館、 金成分庁舎	対象者	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	参加者	91人	330人	460人	477人	438人	指導者	55人	58人	49人	69人	53人
事業名	放課後学習会	週末学習会①	週末学習会②	夏休み学習会	冬休み学習会																																				
実施期間	9/14～12/14	10/17～12/5	1/30～3/5	8/20～8/22	12/25～12/27																																				
場所	花山小学校	栗原文化会館、 若柳公民館 一迫ふれあいホール	栗原文化会館、 教育研究センター 高清水コミュニティセンター	栗原文化会館、 金成分庁舎	栗原文化会館、 金成分庁舎																																				
対象者	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年																																				
参加者	91人	330人	460人	477人	438人																																				
指導者	55人	58人	49人	69人	53人																																				
評価																																									
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																							
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																									
学び支援コーディネーター事業においては、各学校における参加者のバラツキがあることから、その解消を図る必要がある。			➡	各学校に参加についての周知を行い、参加者の増加を図る。																																					
5 学識経験者の意見																																									
児童生徒に授業以外の学びの場を提供することは大切である。今回の送迎バスの導入による参加者の増加を踏まえると、このような学習事業に参加しない児童生徒も事業そのものが嫌なのではなく、参加しづらい事情があることが伺える。今後もニーズを的確に把握して参加者の増加を目指してほしい。																																									

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する																																	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成			担当課 学校教育課																																
1 目的																																					
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																					
2 具体的事業																																					
施策を構成する事業																																					
10「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」																																					
事業概要及び目標																																					
小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、ALTを活用して、小学校外国語活動の充実を図る。また、宮城教育大学の留学生との交流事業や小学校外国語活動に関する研修会の開催を実施する。 JETプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。 (注1) JETプログラム…国が行っている語学指導等を行う外国青年招致事業 (注2) ALT…外国語指導助手（英語や英語活動の授業で日本人教師を補助する外国人教師） (注3) ノンJET…国が行っているJETプログラム事業以外の事業で、ここでは民間への業務委託のこと																																					
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																					
取り組みと成果																																					
小学校英語活動については、ノンJETのALT4人と、中学校に配置しているJETプログラムのALT3人を活用し、金成小学校を除く小学校の3・4年生で年間15時間程度、5・6年生については年間35時間の英語活動を実施した。 また、金成小学校では、小中一貫校のメリットを生かし、独自の教育課程として、「国際キャリア科」を創設しており、1年生から9年生までの成長過程に応じた英語教育を展開している。 夏季休業中に、小学校3年生以上を対象に活動全般を英語だけで過ごす「英語でチャレンジ」や「英語でキャンプ」を実施し、児童からは、楽しく活動ができ英語が好きになったなど、大変好評だった。併せて、留学生との交流事業は、2小学校で実施した。 小学校外国語活動に関する研修会では、昨年実施できなかった小・中学校英語研修会を行うことができ、金成小中学校で実施している「国際キャリア科」の授業風景や講演等を聞き、具体的な実践活動を学ぶことで、今後の英語活動への指導の在り方についての方向性を示すことができた。																																					
<table><tr><th>事業名</th><th>期 日</th><th>会 場</th><th>対象・学年</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>英語でチャレンジ</td><td>8月3日（月）</td><td>この花さくや姫プラザ</td><td>3～5年</td><td>48人</td></tr><tr><td>英語でキャンプ</td><td>8月4日（火）～5日（水）</td><td>国立花山青少年自然の家</td><td>5・6年</td><td>18人</td></tr><tr><td rowspan="2">宮城教育大学留学生との交流事業</td><td rowspan="2">11月25日（水）</td><td>瀬峰小学校</td><td>3～4年</td><td>66人</td></tr><tr><td>清水小学校</td><td>3～4年</td><td>69人</td></tr><tr><td rowspan="2">外国語担当者研修会</td><td>12月16日（水）</td><td>教育研究センター</td><td>小学校教員</td><td>12人</td></tr><tr><td>2月2日（火）</td><td>金成小中学校</td><td>小中学校教員</td><td>18人</td></tr></table>						事業名	期 日	会 場	対象・学年	参加人数	英語でチャレンジ	8月3日（月）	この花さくや姫プラザ	3～5年	48人	英語でキャンプ	8月4日（火）～5日（水）	国立花山青少年自然の家	5・6年	18人	宮城教育大学留学生との交流事業	11月25日（水）	瀬峰小学校	3～4年	66人	清水小学校	3～4年	69人	外国語担当者研修会	12月16日（水）	教育研究センター	小学校教員	12人	2月2日（火）	金成小中学校	小中学校教員	18人
事業名	期 日	会 場	対象・学年	参加人数																																	
英語でチャレンジ	8月3日（月）	この花さくや姫プラザ	3～5年	48人																																	
英語でキャンプ	8月4日（火）～5日（水）	国立花山青少年自然の家	5・6年	18人																																	
宮城教育大学留学生との交流事業	11月25日（水）	瀬峰小学校	3～4年	66人																																	
		清水小学校	3～4年	69人																																	
外国語担当者研修会	12月16日（水）	教育研究センター	小学校教員	12人																																	
	2月2日（火）	金成小中学校	小中学校教員	18人																																	
評 価																																					
<table><tr><td rowspan="4">B</td><td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</td></tr><tr><td>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</td></tr><tr><td>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）</td></tr><tr><td>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</td></tr></table>						B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																											
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																					
<table><tr><td>県の学力学習調査において、英語の県平均を下回ったことから、ALTの更なる効果的な活用と、2回の外国語研修会を充実させて、教員の指導力の向上を図る必要がある。</td><td>➡</td><td>小学校の段階から英語に慣れ親しむ活動を進め、中学生の英語能力の向上を図るとともに、学校現場を即した、効果的な外国語研修会を実施し、教員の指導力の向上を図る。</td></tr></table>						県の学力学習調査において、英語の県平均を下回ったことから、ALTの更なる効果的な活用と、2回の外国語研修会を充実させて、教員の指導力の向上を図る必要がある。	➡	小学校の段階から英語に慣れ親しむ活動を進め、中学生の英語能力の向上を図るとともに、学校現場を即した、効果的な外国語研修会を実施し、教員の指導力の向上を図る。																													
県の学力学習調査において、英語の県平均を下回ったことから、ALTの更なる効果的な活用と、2回の外国語研修会を充実させて、教員の指導力の向上を図る必要がある。	➡	小学校の段階から英語に慣れ親しむ活動を進め、中学生の英語能力の向上を図るとともに、学校現場を即した、効果的な外国語研修会を実施し、教員の指導力の向上を図る。																																			
5 学識経験者の意見																																					
まずは楽しいと思えることが大切であるので、英語を話す必然性を作り出すために、キャンプ等の実施を行っていることは評価できる。また、教員向けの研修が実施できたことも評価できる。研修がどのように活かされたか把握するとともに、継続的な開催に努めていただきたい。																																					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する	
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育の推進			担当課 学校教育課
1 目的					
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
11「防災主任研修会」					
事業概要及び目標					
児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との強化のため、すべての小・中学校で防災マニュアルの見直しを行い、それに基づいて児童生徒の安全確保を図る危機管理体制を確立する。また、関係機関との連携を図り、自らの命を守るための防災教育を充実させるために、防災主任を対象として研修会を実施する。					
3 平成27年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
栗原市教育委員会として2回の研修会を実施した。 第1回の研修会では、宮城県教育庁スポーツ健康課より講師を招き、法的な根拠を明確にしなが ら、防災主任としての基礎的な知識と地域連携のポイントについて具体的に例を挙げながら講話をい ただいた。 第2回の研修会では、みやぎ防災教育推進協力校である志波姫小学校の防災主幹教諭による、みや ぎ防災教育副読本を活用した授業提供と今年度の取組の概要についての発表をもとに、研究協議を 行った。宮城県教育庁スポーツ健康課、宮城県北部教育事務所栗原地域事務所より2名の指導主事 をお招きし、指導講評をいただいた。副読本の活用の具体と地域との連携のポイント等について学ぶこ とができた。来年度は各校での実践をさらに進めていけるよう支援していく。					
主催・共催		事業名	開催日	内容	参加人数
栗原市教育員会		第1回栗原市防災主任研修会	平成27年6月16日（水）	○講話「宮城県における防災教育の現状と課題」 ○研修「市内小・中学校の防災教育の取組状況と課題」	30人
栗原市教育員会		第2回栗原市防災主任研修会	平成28年1月14日（木）	○みやぎ防災教育副読本を活用した授業参観 ・6年社会科「災害から私たちの生活を支える」 ○授業に関する研究協議と志波姫小学校の取組について 他	28人
評 価					
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針					
宮城県教育委員会の副読本の効果的な活 用の仕方や、実践についての方法等の研修 を行う必要がある。			➡	引き続き、宮城県教育委員会の副読本の活 用の仕方や、「栗駒山麓ジオパーク副読本」 等の防災教育の教材を活用しながら、実践に ついての研修会を進めていく。	
5 学識経験者の意見					
災害は滅多に起こらないが予告無く発生するため、防災主任の果たす役割は重要であり、日頃の研 鑽が求められる。そうした点から研修を2回実施できたことは評価できる。一方、「事業概要及び目 標」に示された防災マニュアルの見直しについて、市内の小中学校でどのようなことが行われたか についても検証が必要であろう。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する	
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育の推進			担当課 学校教育課

1 目的					
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
12「地域と連携した避難訓練の推進」					

事業概要及び目標							
幼児の安全確保に向けた危機管理体制の確立を図り、適切な訓練を実施するために、防災マニュアルの見直しを行うとともに、関係機関との連携を図りながら、防災担当者を中心として防災教育に取り組む。							
3 平成27年度の取り組みと自己評価							
取り組みと成果							
防災マニュアルの見直しを行った幼稚園は、10園で、すべての幼稚園で見直しが図られた。 また、市内全ての幼稚園で、警察署や消防署等の関係機関と連携しての避難訓練や、絵本や紙芝居などを活用しての防災教育に取り組んだ。引き渡し訓練については、不審者対応または災害対応として、9園で実施された。地域との連携についても、合同の避難訓練について3園（災害対応1園、不審者対応2園）において実施された。今後、そうした取組について、他の幼稚園や地域にも広げていくようにする。 連携している関係機関や避難訓練以外の防災教育について							
幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育		幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育	
築館幼稚園	消防署、保護者、総合支所、警察署	幼年消防クラブ任命式、消防署見学、ポンプ車・放水見学、引渡訓練、不審者対応訓練、警察官の講話		瀬峰幼稚園	消防署、警察署、保護者	幼年消防クラブ任命式、消防署長の講話、ポンプ車見学、警察官の講話、引渡方法についての文書配布	
岩ヶ崎幼稚園	消防署、交通指導隊、保護者	幼年消防クラブ任命式、ポンプ車見学、放水体験、交通指導隊の方の講話、交通安全指導、紙芝居、引渡訓練、絵カード		鶯沢幼稚園	警察署、消防署、保護者、保育所	不審者想定寸劇と講話、幼年消防クラブ任命式、ポンプ車見学、放水体験、引渡訓練	
尾松幼稚園	消防署、警察署、総合支所、小学校、保護者	消防署長の講話、ポンプ車見学、放水体験、警察官の講話、交通安全指導、幼小合同引渡訓練		金成幼稚園	消防署、警察署、教育委員会、保護者、ボランティア	幼年消防クラブ任命式、ポンプ車見学、煙道訓練、放水体験、警察官講話、不審者対応訓練、災害引渡訓練、絵本の読み聞かせ	
高清水幼稚園	消防署、保護者、総合支所、警察署、防犯協会	幼年消防クラブ任命式、消防署員の講話、ポンプ車見学、引渡訓練、不審者対応訓練、警察官の講話、人形劇による不審者対応の話		ふたば幼稚園	消防署、警察署、保護者、小学校	幼年消防クラブ任命式、ポンプ車見学、放水体験、花火の遊び方指導、警察官の講話、引渡訓練、合同避難訓練	
一迫幼稚園	消防署、警察署、保護者、小学校、保育所、地域、総合支所	幼年消防クラブ任命式、ポンプ車見学、放水体験、花火の遊び方指導、警察官の講話、交通安全指導、引渡訓練、合同避難訓練		花山幼稚園	警察署、保護者、総合支所、消防署、	警察官の講話、親子交通安全教室、不審者対応訓練、消防士の講話、ポンプ車見学、煙道体験、消火訓練の見学、DVD視聴、引渡訓練	

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成28年度に向けた課題・今後の方針	
防災マニュアルの見直しは全ての幼稚園で行われているが、幼児の安全確保に向けて更なる防災教育や防災訓練を充実していく必要がある。	➡ 関係機関との綿密な連携を図り、幼児の安全確保を図るための、避難訓練、防災教育の充実、危機管理体制の構築を図る。
5 学識経験者の意見	
防災マニュアルをすべての幼稚園で見直すことができたことは評価できる。どのような点に不備があり、どのように改善したのかを示すことが、他機関での見直しの参考となるので、参照できるようにすることが必要ではないか。今後も、万が一に備えて避難訓練や防災教育に地域で取り組むことが求められる。	

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む																												
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課																												
1 目的																																
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。																																
2 具体的事業																																
施策を構成する事業																																
13「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」																																
事業概要及び目標																																
いじめの防止、いじめの早期発見、いじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、栗原市いじめ防止基本方針に基づき、学校の内外を問わず、関係者が一体となりいじめ問題を克服する。																																
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																
取り組みと成果																																
各校においては、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」の定義への認識を再確認し、いじめの訴えや様子が見られた時には、「いじめ問題対策委員会」を開催し、情報共有の上で対策を立てるという認識が浸透してきている。教育委員会においては、栗原市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催し、関係機関との連携を取りながら、いじめ防止に関する情報を共有することができた。また、「栗原市いじめ防止対策調査委員会」では、平成26年度に発生した市内中学生の不慮の事故に係る調査とその報告書の作成を第25回までの開催の中で行い、10月に終了した。その後、2回の調査委員会では、栗原市内小・中学校のいじめ防止や対策に関する現状と今後の取組等について提言を頂いた。その提言に基づき、1月28日には、市内幼稚園長、小・中学校長を対象とした「重大事案発生時における対応等に関する研修会」を開催した。																																
<table><tr><th>事業名</th><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td><td>平成27年12月24日（木）</td><td>栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について</td><td>24人</td></tr><tr><td>第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td><td>平成28年2月18日（木）</td><td>学校現場におけるいじめ問題対策の現状について</td><td>23人</td></tr><tr><th>事業名</th><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>第7～27回栗原市いじめ防止対策調査委員会</td><td>平成27年4月5日（日）～平成28年3月6日（日）</td><td>市内中学校生徒の不慮の事故に係る調査について</td><td>136人</td></tr><tr><th>事業名</th><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>重大事案発生時における対応等に関する研修会</td><td>平成28年1月28日（木）</td><td>○講師：宮城教育大学 教授 佐藤 静氏 ○演題：「子どもたちの心と命を守るために」 ○対象：栗原市内幼稚園長、小・中学校長 ○子どもたちの心と命を守るための取組、生徒指導・教育相談体制の強化、重大事案等における緊急対応の検討についての講話</td><td>40人</td></tr></table>					事業名	開催日	内容	参加人数	第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成27年12月24日（木）	栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について	24人	第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成28年2月18日（木）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について	23人	事業名	開催日	内容	参加人数	第7～27回栗原市いじめ防止対策調査委員会	平成27年4月5日（日）～平成28年3月6日（日）	市内中学校生徒の不慮の事故に係る調査について	136人	事業名	開催日	内容	参加人数	重大事案発生時における対応等に関する研修会	平成28年1月28日（木）	○講師：宮城教育大学 教授 佐藤 静氏 ○演題：「子どもたちの心と命を守るために」 ○対象：栗原市内幼稚園長、小・中学校長 ○子どもたちの心と命を守るための取組、生徒指導・教育相談体制の強化、重大事案等における緊急対応の検討についての講話	40人
事業名	開催日	内容	参加人数																													
第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成27年12月24日（木）	栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について	24人																													
第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成28年2月18日（木）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について	23人																													
事業名	開催日	内容	参加人数																													
第7～27回栗原市いじめ防止対策調査委員会	平成27年4月5日（日）～平成28年3月6日（日）	市内中学校生徒の不慮の事故に係る調査について	136人																													
事業名	開催日	内容	参加人数																													
重大事案発生時における対応等に関する研修会	平成28年1月28日（木）	○講師：宮城教育大学 教授 佐藤 静氏 ○演題：「子どもたちの心と命を守るために」 ○対象：栗原市内幼稚園長、小・中学校長 ○子どもたちの心と命を守るための取組、生徒指導・教育相談体制の強化、重大事案等における緊急対応の検討についての講話	40人																													
評価																																
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																															
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																															
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																															
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																
いじめ防止基本方針に基づく重大事案が発生した際の初動体制として、どのような対応が必要であるかを検討する必要がある。		➡	重大事案発生の際の行動について、「緊急対応マニュアル」を作成し、教育委員会、学校、保護者等が連携して、対応できるようにしていく。																													
5 学識経験者の意見																																
市内の学校において、いじめに関する共通認識ができあがってきていることは評価できる。社会において、いじめの前段階になるような対人関係の問題は必ず生じるものであるので、「いじめがない」ことよりも「いじめに対して適切に対処できる」「事態が重篤化する前に解決を図る」という意識で取り組みを継続してほしい。																																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課
1 目的				
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
14「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」				
事業概要及び目標				
いじめ等の悩みを抱える児童生徒への適切な対応を行うため、「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の相談員を派遣して、別室に登校している児童生徒に学習支援等を行う。 また、不登校傾向の児童生徒や家庭に対して、スクールソーシャルワーカーを派遣して、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携して、問題解決に向けて、その方向性を探っていく。				
3 平成27年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
「問題を抱える子ども等の自立支援事業」については、2名の相談員が関係機関と連携を取りながら、2校（小・中学校各1校）において学習支援等を行うことができた。 「スクールソーシャルワーカー活用事業」については、1名のスクールソーシャルワーカーが8校11名の児童生徒と家庭にかかわり、学校復帰や家庭内の問題解決に向けた取組を学校や関係機関と連携しながら支援を行った。また、関係機関との連携の中で、市内小中学校への訪問や、ケース会議等を通して、各校の実態と課題について把握するとともに、今後の取組について協議を行った。				
相談件数（H28.3末現在）				
事業名			平成27年度	
問題を抱える子ども等の自立支援事業			83 回	
スクールソーシャルワーカー活用事業			93 回	
評価				
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）		
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針				
悩みを抱える児童・生徒、不登校傾向の児童・生徒は、依然として学校教育の大きな課題となっていることから、今後も関係機関が連携した総合的な取組が必要である。			➡	宮城県の登校支援ネットワーク事業、スクールソーシャルワーカー活用事業、教育相談員等の既存の仕組みを効果的に活用しながら、支援を必要とする児童・生徒の問題解決に対応していく。
5 学識経験者の意見				
学校に対して悩みや不安を抱える子供たちにとって、「学校の先生」以外の相談できる専門家の存在は大切である。今後も継続して取り組んでいくとともに、子どもや保護者が相談した体制づくりに一層取り組んでいただきたい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む									
	具体的施策	一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進		担当課 学校教育課									
1 目的													
一人ひとりに夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進を図る。 また、自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進を図る。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
15「志教育支援事業（注1）」 （注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育													
事業概要及び目標													
社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取組が必要かなどについて、自己を見つめ考えさせる志教育の充実と推進を図る。 県の「志教育支援事業」の指定を受け、栗原西中学校区における児童・生徒に、次の6つの取組について支援を行う。 (1) 推進地区連絡協議会の設置及び運営 (2) 志教育指導計画・参考指導事例集・「みやぎの先人集」に基づいた授業実践とその検証 (3) 家庭及び地域、幼・小・中・高等学校と連携した事業の検討と実施 (4) 志教育推進研修会等の実施 (5) 小・中・高交流発表会、事例発表会の実施 (6) 事例報告書の作成													
3 平成27年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
栗原西中学校区が県の「志教育支援事業」の指定を受け、1年間にわたる事業の推進を支援した。異校種連携、地域連携を特色として取り組み、志の高い児童・生徒の育成に寄与することができた。 なお、県の研究指定校としての「志教育支援事業」は、今年度で終了するが、小・中学校においてこれまで培ってきた取組を継続し、市内全域に広げていく。													
<table><tr><th>期 日</th><th>会議・発表会</th><th>内容</th></tr><tr><td>6月 4日（木） ～ 1月26日（火）</td><td>第1回～6回 連絡協議会</td><td>・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成</td></tr><tr><td>12月 9日（水） 13：30～15：30</td><td>児童生徒交流発表会 （一迫ふれあいホール）</td><td>実践発表 ・「ゆりの花を咲かせよう」「ラジオ体操」 ・「ぼくらネーチャー探検隊」「さくら岡祭り」 ・「地域サポート活動」 ・「地域とのかかわりを大切にした活動から」 講演 「南くりこま高原一迫ゆり園にかける思い」</td></tr></table>					期 日	会議・発表会	内容	6月 4日（木） ～ 1月26日（火）	第1回～6回 連絡協議会	・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成	12月 9日（水） 13：30～15：30	児童生徒交流発表会 （一迫ふれあいホール）	実践発表 ・「ゆりの花を咲かせよう」「ラジオ体操」 ・「ぼくらネーチャー探検隊」「さくら岡祭り」 ・「地域サポート活動」 ・「地域とのかかわりを大切にした活動から」 講演 「南くりこま高原一迫ゆり園にかける思い」
期 日	会議・発表会	内容											
6月 4日（木） ～ 1月26日（火）	第1回～6回 連絡協議会	・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成											
12月 9日（水） 13：30～15：30	児童生徒交流発表会 （一迫ふれあいホール）	実践発表 ・「ゆりの花を咲かせよう」「ラジオ体操」 ・「ぼくらネーチャー探検隊」「さくら岡祭り」 ・「地域サポート活動」 ・「地域とのかかわりを大切にした活動から」 講演 「南くりこま高原一迫ゆり園にかける思い」											
評 価													
<table><tr><td rowspan="4">B</td><td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</td></tr><tr><td>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</td></tr><tr><td>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）</td></tr><tr><td>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</td></tr></table>					B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）												
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）												
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）												
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）												
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針													
<table><tr><td>県の研究指定校としての志教育支援事業は、平成27年度で終了するが、今後も、継続・拡大という本教育の趣旨を重視し、市として学校の志教育の取組を支援していく必要がある。</td><td>➡</td><td>これまで実施してきた学校の取組みを市内学校で共有する仕組みを構築し、各学校の環境や地域性に合わせた志教育を推進するように指導・助言していく。</td></tr></table>					県の研究指定校としての志教育支援事業は、平成27年度で終了するが、今後も、継続・拡大という本教育の趣旨を重視し、市として学校の志教育の取組を支援していく必要がある。	➡	これまで実施してきた学校の取組みを市内学校で共有する仕組みを構築し、各学校の環境や地域性に合わせた志教育を推進するように指導・助言していく。						
県の研究指定校としての志教育支援事業は、平成27年度で終了するが、今後も、継続・拡大という本教育の趣旨を重視し、市として学校の志教育の取組を支援していく必要がある。	➡	これまで実施してきた学校の取組みを市内学校で共有する仕組みを構築し、各学校の環境や地域性に合わせた志教育を推進するように指導・助言していく。											
5 学識経験者の意見													
県の指定に応えられるよう取り組んだ様子がうかがえる。この取り組みが生徒の今度にどのように影響していくのか調査をすることも検討していただきたい。また、これから市としての取り組みとして、市内の全小中学校でどのような取り組みを行っていくのかを検討する上で、今回の事業で培うことができたものを検証していただきたい。													

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む																																																						
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進			担当課 学校教育課																																																					
1 目的																																																										
一人ひとりに夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進を図る。 また、豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰をめざし、基礎学力を身に付けるための支援を行う。																																																										
2 具体的事業																																																										
施策を構成する事業																																																										
16「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」																																																										
事業概要及び目標																																																										
学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができるよう体制整備をする。 また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置し、さらに、県よりみやぎ心のケア支援員1人（週1回）の派遣を受け、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障するとともに登校に向けての支援を行う。																																																										
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																										
取り組みと成果																																																										
教育相談員や在学青少年指導員の活動を通して、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握し、適切な支援体制の確立に努めることができた。昨年度まで通所日は火曜日から金曜日までの週4日間だったが、今年度は不登校児童生徒の学校復帰につなげるために、規則正しい生活リズムの定着をめざして通所日を学校と同様の月曜日から金曜日までの週5日間とした。 適応指導教室の入所状況については、3小学校から3人、6中学校から12人が通級し、在学青少年指導員と補助員が一人一人の状態をみながら、所属校と連絡を密にし指導にあたった結果、中学生2人が学校復帰を果たした。その他の小中学生も通学回数を増やすことができた。 なお、適応指導教室に入所していた中学校3年生の2人は、希望どおりの高校に進学することができた。																																																										
<table><tr><th>事業名</th><th>対応日時及び時間</th><th colspan="7">対応状況</th></tr><tr><td>教育相談</td><td>毎週火・水・金 8:30～17:15</td><td colspan="7">来庁相談：9件、電話相談：18件、学校訪問相談：9件（H28.3月末現在）</td></tr><tr><td rowspan="5">けやき教室</td><td rowspan="5">毎週月～金、 8:30～15:30</td><td rowspan="5">通所人数</td><td>開所日数</td><td colspan="5">198日（H28.3月末現在）</td></tr><tr><td>小学6年生</td><td>中学1年生</td><td>中学2年生</td><td>中学3年生</td><td>合計</td></tr><tr><td>正式通所</td><td>3人</td><td>2人</td><td>8人</td><td>2人</td><td>15人</td></tr><tr><td>体験通所</td><td>3人</td><td>3人</td><td>4人</td><td>1人</td><td>11人</td></tr><tr><td>合計</td><td>6人</td><td>5人</td><td>12人</td><td>3人</td><td>26人</td></tr></table>									事業名	対応日時及び時間	対応状況							教育相談	毎週火・水・金 8:30～17:15	来庁相談：9件、電話相談：18件、学校訪問相談：9件（H28.3月末現在）							けやき教室	毎週月～金、 8:30～15:30	通所人数	開所日数	198日（H28.3月末現在）					小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計	正式通所	3人	2人	8人	2人	15人	体験通所	3人	3人	4人	1人	11人	合計	6人	5人	12人	3人	26人
事業名	対応日時及び時間	対応状況																																																								
教育相談	毎週火・水・金 8:30～17:15	来庁相談：9件、電話相談：18件、学校訪問相談：9件（H28.3月末現在）																																																								
けやき教室	毎週月～金、 8:30～15:30	通所人数	開所日数	198日（H28.3月末現在）																																																						
			小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計																																																			
			正式通所	3人	2人	8人	2人	15人																																																		
			体験通所	3人	3人	4人	1人	11人																																																		
			合計	6人	5人	12人	3人	26人																																																		
評価																																																										
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																								
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																										
不登校児童生徒が増加傾向にあるが、けやき教室を利用する児童生徒は3割程度しかないため、けやき教室の利用を働きかけていく必要がある。				➡	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び学校と連携を密にしながら、ケースに応じてけやき教室の利用を促し、生活リズムの改善を行い、学校復帰に繋がるようにしていく。																																																					
5 学識経験者の意見																																																										
適切な支援体制の確立により、関わることでできた児童生徒においては好ましい成果が上がっていると考えられる。利用者が3割程度ということなので、なぜ利用しないのか、利用できない原因は何か、という点についても実態把握に努めることも必要ではないだろうか。																																																										

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る	
	具体的施策	健やかな身体を培う体育・健康教育の充実			担当課 学校教育課

1 目的

健やかな体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

17「全国体力・運動能力調査の結果分析」

事業概要及び目標

毎年、全ての小中学校で実施されている「全国体力・運動能力調査」の結果を累積し、継続してその変容を見ながら分析し、成果と課題を明確にした上で、対策を講じていくことによって、児童生徒の体力・運動能力の向上を図るとともに、正しい食習慣や生活習慣を身につけ、生涯にわたって自らの健康を増進しようとする態度を養っていく。

3 平成27年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

平成27年度の小学校5年生と中学校2年生の実技についての調査結果の全国及び宮城県との比較の結果は以下のとおりであった。市内小・中学校においては、調査結果より自校の課題について把握した上で、その解決に向けた対策を講じてきた。その結果、小学校においては課題であった持久力(シャトルラン)について、全国平均にはまだ劣るものの、改善の傾向が見られた。中学校では、柔軟性(長座体前屈)に改善の傾向が見られた。課題は、小・中学校とも走力(50m走)の向上である。運動習慣等の調査からは、中学生は総運動時間が全国平均を大きく上回っているが、小学生は土日の運動実施の割合が全国平均を大きく下回っており、学校以外で運動の場を確保する必要がある。また、中学校では、体育の授業の楽しさや充実感を感じている生徒の割合が全国平均を大きく上回ったが、小学校においては、やや下回る結果となった。

<平成26・27年度 栗原市内小学校5年生と中学校2年生の平均記録と全国・宮城県の平均記録との比較>

※「◎」はH26、H27ともに全国及び宮城県の平均記録を上回った種目を表す。
※「○」はH26は全国及び宮城県の平均記録を下回っていたがH27に上回った種目を表す。
※「△」は全国及び宮城県の平均記録とほぼ同じと捉えることができる種目を表す。(※差が±0.1未満)
※「×」は全国及び宮城県の平均記録を下回っている種目、「××」はH26・H27とも下回っている種目を表す。
※矢印はH26との比較で、「↑(↓)」はH26より平均記録との乖離が小さく(大きく)なっている種目、「→」は変化がない種目を表す。

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ	合計点
小学校5年男子	国・比較	◎↑	××↑	◎↓	××↓	××↑	××→	××↑	◎↑	××↓
	県・比較	◎↑	××↑	△↓	××↓	××↑	××→	◎↑	×	××↑
小学校5年女子	国・比較	◎↑	××↑	×↓	◎↓	△↑	△→	△↓	◎↓	△↓
	県・比較	◎↑	△×↑	×↓	◎↑	◎↑	△→	△↓	◎↓	◎↓
中学校2年男子	国・比較	◎↑	△↓	○↑	◎↓	○↑	◎↓	×↓	×↓	◎↓
	県・比較	◎↑	×↓	○↑	◎↓	○↑	◎↓	×↓	×↓	◎↓
中学校2年女子	国・比較	◎↓	△↓	○↑	◎↓	×↓	×↓	××↓	×↓	×↓
	県・比較	◎↓	×↓	○↑	◎↑	◎↓	×↓	×↓	◎↓	×↑

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね70%未満)
D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 平成28年度に向けた課題・今後の方針

小学校においては、土日の運動の実施割合が全国平均を大きく下回っており、運動の日常化を図っていく必要がある。

→

各学校において実技や運動習慣における課題を明確にした上で、楽しさを味わえる体育の授業づくりとともに、場の設定や取り組みせ方の工夫を通じて、運動の日常化を図る。

5 学識経験者の意見

土日の運動の実施割合が低いとの課題に対して、学校教育における運動の楽しみ方について、十分に配慮して指導する工夫が求められる。他方で、一般成人も含めた、社会教育における運動に関わるイベントの充実も求められる。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																																																												
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】						担当課 社会教育課																																																																								
1 目的																																																																																
幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、子育てについての学習や親同士、保護者同士の情報交換、親子の交流やふれあいを通じて子どものしつけや子育てについて考える機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。																																																																																
2 具体的事業																																																																																
施策を構成する事業																																																																																
18「家庭教育学級」																																																																																
事業概要及び目標																																																																																
幼児、児童の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において行う家庭教育学級の講師派遣の支援を行う。 これまで、未開催の学校等での実施に向け、周知を図る。																																																																																
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																																																
取り組みと成果																																																																																
保育所、幼稚園、小学生の保護者を対象に家庭教育学級を実施した。 未開催の学校等にも周知を行い、保育所開催は増えたものの、結果的に幼稚園、小学校での開催は減少した。 なお、中学校においても周知を行ったが、学校やPTAから開催の希望がなかった。																																																																																
<table><tr><th colspan="3">平成25年度</th><th colspan="3">平成26年度</th><th colspan="3">平成27年度</th></tr><tr><td>保育所</td><td>2回</td><td rowspan="4">19回</td><td>保育所</td><td>1回</td><td rowspan="4">18回</td><td>保育所</td><td>4回</td><td rowspan="4">17回</td></tr><tr><td>幼稚園</td><td>10回</td><td>幼稚園</td><td>10回</td><td>幼稚園</td><td>7回</td></tr><tr><td>小学校</td><td>7回</td><td>小学校</td><td>7回</td><td>小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>—</td></tr><tr><td>保育所</td><td>243人</td><td rowspan="4">1,671人</td><td>保育所</td><td>65人</td><td rowspan="4">1,828人</td><td>保育所</td><td>462人</td><td rowspan="4">2,376人</td></tr><tr><td>幼稚園</td><td>1,025人</td><td>幼稚園</td><td>1,239人</td><td>幼稚園</td><td>1,107人</td></tr><tr><td>小学校</td><td>403人</td><td>小学校</td><td>524人</td><td>小学校</td><td>807人</td></tr><tr><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>—</td></tr><tr><td colspan="3">125,000 円</td><td colspan="3">145,000 円</td><td colspan="3">115,000 円</td></tr></table>									平成25年度			平成26年度			平成27年度			保育所	2回	19回	保育所	1回	18回	保育所	4回	17回	幼稚園	10回	幼稚園	10回	幼稚園	7回	小学校	7回	小学校	7回	小学校	6回	中学校	—	中学校	—	中学校	—	保育所	243人	1,671人	保育所	65人	1,828人	保育所	462人	2,376人	幼稚園	1,025人	幼稚園	1,239人	幼稚園	1,107人	小学校	403人	小学校	524人	小学校	807人	中学校	—	中学校	—	中学校	—	125,000 円			145,000 円			115,000 円		
平成25年度			平成26年度			平成27年度																																																																										
保育所	2回	19回	保育所	1回	18回	保育所	4回	17回																																																																								
幼稚園	10回		幼稚園	10回		幼稚園	7回																																																																									
小学校	7回		小学校	7回		小学校	6回																																																																									
中学校	—		中学校	—		中学校	—																																																																									
保育所	243人	1,671人	保育所	65人	1,828人	保育所	462人	2,376人																																																																								
幼稚園	1,025人		幼稚園	1,239人		幼稚園	1,107人																																																																									
小学校	403人		小学校	524人		小学校	807人																																																																									
中学校	—		中学校	—		中学校	—																																																																									
125,000 円			145,000 円			115,000 円																																																																										
評価																																																																																
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																																														
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																																																
家庭の教育力の向上を図るため、事業の開催方法の工夫と周知が必要である。				➡	事業内容のPRと、未開催学校等へ実施例を示しながら開催方法を推進する。																																																																											
5 学識経験者の意見																																																																																
経年的な参加者数の変化の要因について、検討する余地がある。とくに保育所と小学校の保護者の参加者数が増えた背景について、理解しておく必要がある。																																																																																

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】			担当課 社会教育課

1 目的

幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。

2 具体的事業

施策を構成する事業

19「ブックスタート事業」

事業概要及び目標

3～4か月児健診の際に、読み聞かせボランティアと職員で絵本の読み聞かせを行い、絵本を手渡す。絵本を介して親子がふれあうきっかけを作り、読書の大切さを伝える。

3 平成27年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

健診に参加するすべての赤ちゃんの保護者が対象になることから、絵本に興味なかった保護者にも絵本を開く楽しさを伝えることができた。

また、フォローアップ事業として、赤ちゃん向けおはなし会を行い、さらに今年度は10～11か月児育児相談での絵本の読み聞かせも行った。

ブックスタート事業

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開催回数	35 回	24 回	24 回	24 回	22 回
配付数	470 人	438 人	424 人	368 人	330 人

赤ちゃん向けおはなし会（築館子育て支援センターへの出前事業）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開催回数	10 回	12 回	6 回	6 回	5 回
参加人数	174 人	247 人	130 人	143 人	145 人

絵本読み聞かせ（10～11か月児育児相談時）

	平成27年度
開催回数	24 回
参加人数	338 人

評 価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成28年度に向けた課題・今後の方針

ブックスタート実施後のフォローアップ事業が必要である。

➡

セカンドブック事業実施に向け、各種事業とのタイアップなど、調査検討を進める。

5 学識経験者の意見

経年的な参加者数の変化は、概ね横ばいである。一層の発展に向けて、新たな課題設定も必要と思われる。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興							
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】								担当課 社会教育課	

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

20「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」

事業概要及び目標

地域少年集団の育成と活動の支援を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を図る。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動へ青少年の参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。

3 平成27年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

ジュニア・リーダーの育成を進め、子ども会や地域活動への派遣を行った。
各種研修への参加により、プログラム作成や安全管理能力などの技術向上を行いながら、次代を担うリーダーとしての育成が図られた。
また、市内のジュニア・リーダーが地域を越えて、自ら集まり、意見交換を行い、「ジュニア・リーダーフェスティバル」を実施し、市内の子どもたち59人が参加した。開催までには10回の会議を開催し、企画、準備を行うなど、主体的な活動につなげることができた。

ジュニア・リーダーの地区別人数

	築館	若柳	栗駒	高清水	一迫	瀬峰	鶯沢	金成	志波姫	花山	合計
人数	13	0	12	0	6	12	4	1	0	0	48

ジュニア・リーダー関連事業

事業名	期 日	参加者数	担当部署
ジュニア・リーダー初級研修会	10月10日(土)～11日(日)	10人(初級2人)	社会教育課
ジュニア・リーダーフェスティバル	3月13日(日)	59人(J L 20人)	社会教育課
築館ジュニアリーダー人形劇祭り	12月23日(水)	110人	築館・志波姫教育センター
せみね合宿通学	10月5日(月)～10月8日(木)	14人(J L 6人)	瀬峰・高清水教育センター
凧あげ大会	2月14日(日)	59人(J L 2人)	瀬峰・高清水教育センター
せみねっこ・たかしみずっこ ふれあいクリスマスパーティー	12月13日(日)	41人(J L 3人)	瀬峰・高清水教育センター

評 価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 平成28年度に向けた課題・今後の方針

ジュニア・リーダー登録者数の減少と活動機会の提供

➡

各種社会教育事業に参画する機会を増やし、対外的にも認められる活動を増やすことにより、登録者数の増員を目指す。

5 学識経験者の意見

登録者数の増員を目指すとのことであるが、少子化の影響も加味する必要がある。また、現代社会の動向も踏まえ、取り組みの事業内容の見直しも検討する余地がある。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																														
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】			担当課 社会教育課																																													
1 目的																																																		
青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。																																																		
2 具体的事業																																																		
施策を構成する事業																																																		
21「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」																																																		
事業概要及び目標																																																		
青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体と共催による事業を実施する。 また、各種事業に、ジュニアリーダー、シニアリーダーの活用を図り、異年齢集団による交流を図ることとし、将来の青少年教育の指導者育成の一翼を担う。																																																		
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																		
取り組みと成果																																																		
教育センター等で青少年を対象とした事業を開催した。 様々な遊びや体験活動、人との関わりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養い、青少年の成長過程での情操教育の一端となった。 また、事業運営にジュニア・リーダーやシニアリーダーを関わらせ、異年齢集団による交流を図ることができた。																																																		
青少年対象の事業（抜粋）																																																		
<table><tr><th>事業名</th><th>期日・期間</th><th>対象</th><th>参加人数</th><th>連携団体</th></tr><tr><td>青少年職業体験事業 ショク「職」の達人</td><td>7月～8月（5回）</td><td>市内小学生</td><td>14</td><td>青少年のための栗原市民会議栗駒地区会</td></tr><tr><td>少年体験教室事業</td><td>7月～11月（3回）</td><td>築館・志波姫地区小学生</td><td>11</td><td></td></tr><tr><td>第36回少年の主張栗原大会</td><td>7月15日（水）</td><td>中学生</td><td>市内8校代表</td><td>青少年のための栗原市民会議</td></tr><tr><td>あきる野市・栗原市友好親善交流事業</td><td>8/4（火）～8/6（木）</td><td>生徒会交流：市内中学校 部活交流：築館中（剣道）</td><td>39</td><td></td></tr><tr><td>かなりクリスマス子ども祭り</td><td>12月20日（日）</td><td>児童、保護者、一般市民</td><td>124</td><td>金成地区子ども会育成会</td></tr><tr><td>小・中学生新春書初め</td><td>1月5日（火）</td><td>一迫・花山地区小・中学生</td><td>33</td><td>青少年のための栗原市民会議一迫地区会</td></tr><tr><td>鳳あげ大会</td><td>2月14日（日）</td><td>高清水、瀬峰地区市民（親子）</td><td>59</td><td>青少年のための栗原市民会議高清水地区会</td></tr><tr><td>おはなし会</td><td>毎週土曜日</td><td>幼児、小学生</td><td>466</td><td></td></tr></table>						事業名	期日・期間	対象	参加人数	連携団体	青少年職業体験事業 ショク「職」の達人	7月～8月（5回）	市内小学生	14	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会	少年体験教室事業	7月～11月（3回）	築館・志波姫地区小学生	11		第36回少年の主張栗原大会	7月15日（水）	中学生	市内8校代表	青少年のための栗原市民会議	あきる野市・栗原市友好親善交流事業	8/4（火）～8/6（木）	生徒会交流：市内中学校 部活交流：築館中（剣道）	39		かなりクリスマス子ども祭り	12月20日（日）	児童、保護者、一般市民	124	金成地区子ども会育成会	小・中学生新春書初め	1月5日（火）	一迫・花山地区小・中学生	33	青少年のための栗原市民会議一迫地区会	鳳あげ大会	2月14日（日）	高清水、瀬峰地区市民（親子）	59	青少年のための栗原市民会議高清水地区会	おはなし会	毎週土曜日	幼児、小学生	466	
事業名	期日・期間	対象	参加人数	連携団体																																														
青少年職業体験事業 ショク「職」の達人	7月～8月（5回）	市内小学生	14	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会																																														
少年体験教室事業	7月～11月（3回）	築館・志波姫地区小学生	11																																															
第36回少年の主張栗原大会	7月15日（水）	中学生	市内8校代表	青少年のための栗原市民会議																																														
あきる野市・栗原市友好親善交流事業	8/4（火）～8/6（木）	生徒会交流：市内中学校 部活交流：築館中（剣道）	39																																															
かなりクリスマス子ども祭り	12月20日（日）	児童、保護者、一般市民	124	金成地区子ども会育成会																																														
小・中学生新春書初め	1月5日（火）	一迫・花山地区小・中学生	33	青少年のための栗原市民会議一迫地区会																																														
鳳あげ大会	2月14日（日）	高清水、瀬峰地区市民（親子）	59	青少年のための栗原市民会議高清水地区会																																														
おはなし会	毎週土曜日	幼児、小学生	466																																															
評価																																																		
<table><tr><td rowspan="4">B</td><td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</td></tr><tr><td>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</td></tr><tr><td>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）</td></tr><tr><td>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</td></tr></table>						B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																	
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																	
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																																	
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																	
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																		
ジュニア・リーダーやシニアリーダーのPRとさらなる活用が必要である。➡ 各種事業にジュニア・リーダーやシニアリーダーを参画させる機会を増やす。																																																		
5 学識経験者の意見																																																		
青少年対象の事業へのジュニア・リーダーなどの効果的な関わらせ方を具体的に検討する余地もある。																																																		

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供【学びの連続性】			担当課 社会教育課
1 目的					
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
22「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」					
事業概要及び目標					
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。					
3 平成27年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センターごとに実施した。 各種事業を実施することにより、生涯各期に要請された学習機会について提供した。					
主な事業を抜粋					
事業の種類	事業名	期日・期間	対 象	定員参加人数	担当部署
シニアセミナー	高齢講座「シニアセミナー」	6月～12月（4回）	築館・志波姫地区市民（60歳以上）	92人	築館・志波姫教育センター
	せみねリフレッシュカレッジ	6月～3月（4回）	瀬峰地区市民（60歳以上）	57人	瀬峰・高清水教育センター
	花山寿康大学	7月～2月	花山地区市民（60歳以上）	39人	一迫・花山教育センター
	健康のつどい「健康寿命」を延ばそう	10月30日（金）	市民一般	10人	栗駒・鶯沢教育センター
レディースカレッジ	秋茄子とおからパスタ&栗原米粉デザート料理教室	10月30日（金）	市民一般	10人	栗駒・鶯沢教育センター
	女性教室	5月～3月	市民一般	167人	若柳・金成教育センター
市民セミナー	栗駒山麓落葉のじゅうたんを歩く～千年クロベをたずねて～	11月3日（火）	市民一般	20人	栗駒・鶯沢教育センター（合同事業）
	栗駒山 春の星空さんぽ	4月29日（水）	市民一般（親子・成人）	30人	栗駒・鶯沢教育センター
	篆刻・刻字製作講座	7/29（水）・9/15（火）	（親子・成人）	28人	栗駒・鶯沢教育センター
	ワクワク陶芸教室	6月～11月	市民一般（小学生～）	52人	若柳・金成教育センター
	園芸講座	6月～12月	一迫・花山地区市民	46人	一迫・花山教育センター
	手芸講座	6月～11月	一迫・花山地区市民	51人	一迫・花山教育センター
計				621人	
評 価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針					
幅広い年代層を対象とするため、事業内容について、調査検討を行う必要がある。			➡	各種事業において、アンケート調査を実施し、市民ニーズの把握に努める。	
5 学識経験者の意見					
市民ニーズの把握を世代別に検討する必要もある。とくに20代、30代のニーズの掘り起こしも必要と思われる。					

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実			担当課 社会教育課
1 目的					
読書週間（10月27日～11月9日）にあたり、リサイクル資料の提供、読み聞かせボランティアによるおはなし会等を開催し、市民の読書活動を推進する。また、書庫や移動図書館車の案内等により、図書館利用の拡大を図る。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
23「図書館まつり」					
事業概要及び目標					
すべての世代の人たちに読書の楽しさを伝えるため、各種ボランティア団体と連携し、本に関連する様々なイベントを実施する。					
3 平成27年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
前年度は試験的に2日間の開催としたが、土日は図書館利用者が多く、通常業務に支障をきたしたことから、今年度は1日開催とし、各種ボランティア団体と連携しながら、親子で楽しめるイベントを開催した。 普段図書館を利用しない市民に、図書館を身近に感じてもらう良い機会となった。					
事業名		日時	対象者	入館者数	
第12回図書館まつり		10月24日（土）午前9時～午後5時	市民一般	541人	
内容		参加人数	備考（連携団体等）		
本のリサイクルフェア		1,085冊	※リサイクルフェアは、提供した本の冊数		
「ぐりとぐら」に变身しよう！		32人			
図書館たんけんたい		4人			
おはなし会		29人	①おはなしボランティアひなたぼっこ ②おはなしやまぼうし		
人形劇を楽しもう！		37人	人形劇サークルくるみ		
マジックショー		30人	栗原市出身のマジシャンSHINYA		
私のおススメ本！		11人	参加者が、自分のおススメ本を紹介するコーナー		
評価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針					
市民ニーズに対応した事業内容とするため、場合によっては見直しの必要がある。			➡	引き続きアンケート調査を実施しながら、市民への周知方法と事業内容の検討を継続する。	
5 学識経験者の意見					
引き続き、市民ニーズの調査より、企画の見直しを検討する必要がある。					

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																																																	
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実			担当課 社会教育課																																																																
1 目的																																																																					
家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育みます。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図ります。																																																																					
2 具体的事業																																																																					
施策を構成する事業																																																																					
24「協働教育推進事業」																																																																					
事業概要及び目標																																																																					
地域住民がボランティアとして子どもたちの学習および体験活動等を支援する学校支援ボランティア推進事業や地域活動支援事業などを実施し、家庭・地域・学校が連携・協力して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。																																																																					
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																																					
取り組みと成果																																																																					
家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するための事業を実施した。地域住民における協働教育の意義と重要性への理解を深めることができた。																																																																					
<table><tr><th>事業名</th><th>期日</th><th>対象</th><th>事業内容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>第1回協働教育推進委員会</td><td>7/1(水)</td><td>協働教育推進委員ほか</td><td>家庭・地域・学校の連携並びに協力体制や学年等に応じた効果的な協働教育事業の推進に係る協議(実施予定事業に関する協議)</td><td>21名</td></tr><tr><td>協働教育コーディネーター研修会</td><td>8/18(火)</td><td>地域コーディネーターほか</td><td>協働教育の意義に関する講義、学校支援ボランティア活動に関する体験発表</td><td>24名</td></tr><tr><td rowspan="5">学校支援ボランティア推進事業 (推進指定校)</td><td rowspan="5">通年</td><td>若柳小学校</td><td>読み聞かせ、放課後学習会、昔語り・民話、書道クラブ・書初め指導、地域芸能の指導、ミシン作業補助、職業選択や生き方についての講話</td><td>延べ225名</td></tr><tr><td>栗駒小学校</td><td>「栗駒のひと～名人に学ぶ～」,「栗駒の歴史」講話、「栗駒の自然・文化」講話、キャップハンディ体験活動、独居老人との交流会</td><td>延べ781名</td></tr><tr><td>宮野小学校</td><td>畑づくり、表現活動「よさこい栗原」、合唱交流会、高校生吹奏楽部との交流会、書初め(毛筆)の指導、読み聞かせ(高校生)</td><td>延べ191名</td></tr><tr><td>金成小学校</td><td>リンゴ栽培、ホタルの生息調査、稲作栽培、ハリス正教会見学、ミシン操作支援、和太鼓指導、縄ない体験、郷土料理づくり</td><td>延べ213名</td></tr><tr><td>金成中学校</td><td>キャップハンディ体験、職場体験に係るコーディネート体験、福祉体験活動に関するコーディネート</td><td>延べ65名</td></tr><tr><td rowspan="4">地域活動支援事業</td><td>12/23(水)</td><td>築館・志波姫地区</td><td>「ジュニア・リーダー人形劇祭り」(栗原文化会館)</td><td>110名</td></tr><tr><td>12/24(木)</td><td>若柳・金成地区</td><td>「クリスマスおはなし会」(若柳公民館)</td><td>205名</td></tr><tr><td>12/13(日)</td><td>瀬峰・高清水地区</td><td>「ふれあいクリスマス会」(瀬峰農村環境改善センター)</td><td>41名</td></tr><tr><td>1/5～2/4</td><td>一迫・花山地区</td><td>「児童生徒新春書初め会・作品展」(一迫ふれあいホール)</td><td>33名</td></tr><tr><td>学校支援ボランティア実践発表会</td><td>2/23(火)</td><td>地域コーディネーターほか</td><td>推進指定校担当者による学校支援ボランティア事業の実践発表および他自治体担当者による協働教育事業に関する取組事例紹介</td><td>37名</td></tr><tr><td>第2回協働教育推進委員会</td><td>3/8(火)</td><td>協働教育推進委員ほか</td><td>家庭・地域・学校の連携並びに協力体制や学年等に応じた効果的な協働教育事業の推進に係る協議(実績報告に基づく協議)</td><td>19名</td></tr><tr><td>家庭教育支援事業</td><td>3/16(水)</td><td>家庭教育支援に関心のある市民</td><td>「家庭教育サポーター学習会」(金成やすらぎセンター) 家庭教育を支援する人材の育成と地域の教育力向上を目的とする</td><td>33名</td></tr></table> 計 延べ1,998名						事業名	期日	対象	事業内容	参加人数	第1回協働教育推進委員会	7/1(水)	協働教育推進委員ほか	家庭・地域・学校の連携並びに協力体制や学年等に応じた効果的な協働教育事業の推進に係る協議(実施予定事業に関する協議)	21名	協働教育コーディネーター研修会	8/18(火)	地域コーディネーターほか	協働教育の意義に関する講義、学校支援ボランティア活動に関する体験発表	24名	学校支援ボランティア推進事業 (推進指定校)	通年	若柳小学校	読み聞かせ、放課後学習会、昔語り・民話、書道クラブ・書初め指導、地域芸能の指導、ミシン作業補助、職業選択や生き方についての講話	延べ225名	栗駒小学校	「栗駒のひと～名人に学ぶ～」,「栗駒の歴史」講話、「栗駒の自然・文化」講話、キャップハンディ体験活動、独居老人との交流会	延べ781名	宮野小学校	畑づくり、表現活動「よさこい栗原」、合唱交流会、高校生吹奏楽部との交流会、書初め(毛筆)の指導、読み聞かせ(高校生)	延べ191名	金成小学校	リンゴ栽培、ホタルの生息調査、稲作栽培、ハリス正教会見学、ミシン操作支援、和太鼓指導、縄ない体験、郷土料理づくり	延べ213名	金成中学校	キャップハンディ体験、職場体験に係るコーディネート体験、福祉体験活動に関するコーディネート	延べ65名	地域活動支援事業	12/23(水)	築館・志波姫地区	「ジュニア・リーダー人形劇祭り」(栗原文化会館)	110名	12/24(木)	若柳・金成地区	「クリスマスおはなし会」(若柳公民館)	205名	12/13(日)	瀬峰・高清水地区	「ふれあいクリスマス会」(瀬峰農村環境改善センター)	41名	1/5～2/4	一迫・花山地区	「児童生徒新春書初め会・作品展」(一迫ふれあいホール)	33名	学校支援ボランティア実践発表会	2/23(火)	地域コーディネーターほか	推進指定校担当者による学校支援ボランティア事業の実践発表および他自治体担当者による協働教育事業に関する取組事例紹介	37名	第2回協働教育推進委員会	3/8(火)	協働教育推進委員ほか	家庭・地域・学校の連携並びに協力体制や学年等に応じた効果的な協働教育事業の推進に係る協議(実績報告に基づく協議)	19名	家庭教育支援事業	3/16(水)	家庭教育支援に関心のある市民	「家庭教育サポーター学習会」(金成やすらぎセンター) 家庭教育を支援する人材の育成と地域の教育力向上を目的とする	33名
事業名	期日	対象	事業内容	参加人数																																																																	
第1回協働教育推進委員会	7/1(水)	協働教育推進委員ほか	家庭・地域・学校の連携並びに協力体制や学年等に応じた効果的な協働教育事業の推進に係る協議(実施予定事業に関する協議)	21名																																																																	
協働教育コーディネーター研修会	8/18(火)	地域コーディネーターほか	協働教育の意義に関する講義、学校支援ボランティア活動に関する体験発表	24名																																																																	
学校支援ボランティア推進事業 (推進指定校)	通年	若柳小学校	読み聞かせ、放課後学習会、昔語り・民話、書道クラブ・書初め指導、地域芸能の指導、ミシン作業補助、職業選択や生き方についての講話	延べ225名																																																																	
		栗駒小学校	「栗駒のひと～名人に学ぶ～」,「栗駒の歴史」講話、「栗駒の自然・文化」講話、キャップハンディ体験活動、独居老人との交流会	延べ781名																																																																	
		宮野小学校	畑づくり、表現活動「よさこい栗原」、合唱交流会、高校生吹奏楽部との交流会、書初め(毛筆)の指導、読み聞かせ(高校生)	延べ191名																																																																	
		金成小学校	リンゴ栽培、ホタルの生息調査、稲作栽培、ハリス正教会見学、ミシン操作支援、和太鼓指導、縄ない体験、郷土料理づくり	延べ213名																																																																	
		金成中学校	キャップハンディ体験、職場体験に係るコーディネート体験、福祉体験活動に関するコーディネート	延べ65名																																																																	
地域活動支援事業	12/23(水)	築館・志波姫地区	「ジュニア・リーダー人形劇祭り」(栗原文化会館)	110名																																																																	
	12/24(木)	若柳・金成地区	「クリスマスおはなし会」(若柳公民館)	205名																																																																	
	12/13(日)	瀬峰・高清水地区	「ふれあいクリスマス会」(瀬峰農村環境改善センター)	41名																																																																	
	1/5～2/4	一迫・花山地区	「児童生徒新春書初め会・作品展」(一迫ふれあいホール)	33名																																																																	
学校支援ボランティア実践発表会	2/23(火)	地域コーディネーターほか	推進指定校担当者による学校支援ボランティア事業の実践発表および他自治体担当者による協働教育事業に関する取組事例紹介	37名																																																																	
第2回協働教育推進委員会	3/8(火)	協働教育推進委員ほか	家庭・地域・学校の連携並びに協力体制や学年等に応じた効果的な協働教育事業の推進に係る協議(実績報告に基づく協議)	19名																																																																	
家庭教育支援事業	3/16(水)	家庭教育支援に関心のある市民	「家庭教育サポーター学習会」(金成やすらぎセンター) 家庭教育を支援する人材の育成と地域の教育力向上を目的とする	33名																																																																	
評価																																																																					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)																																																																				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)																																																																				
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね70%未満)																																																																				
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)																																																																				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																																					
「協働教育」について、一定の理解は深まってきたものの、さらなるPRと対象校の拡大などが必要である。			➡	事業対象学校を拡大するとともに、さらなる理解を深めることにより、市民の参加を促す。																																																																	
5 学識経験者の意見																																																																					
一層、高齢社会化が見込まれるため、重要な取り組みでもある。そのため、活動の質的な発展も見込んでいく必要がある。																																																																					

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																												
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進			担当課 社会教育課																											
1 目的																																
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。																																
2 具体的事業																																
施策を構成する事業																																
25「青空大使派遣事業」																																
事業概要及び目標																																
市内在住の中学2年生を対象に、オーストラリアでの海外研修を実施し、現地研修として学校訪問、ファームステイ体験、熱帯雨林やグレートバリアリーフの大自然に触れる。 また、海外研修終了後、各学校での体験発表の場を設定するよう働きかけを行う。																																
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																
取り組みと成果																																
中学生20人が参加し、国内研修を7回、海外研修を6泊7日で実施した。 参加した先輩から後輩へ事業の良さを伝えるなど、事業継続の効果が表れている。しかし、個々には伝えられている一方で、学校での発表の場を設定する働きかけを行ったが実施できず、海外研修後の国内研修を増やすこととした。 また、参加者からは「身振り手振りも含めて言いたいことが伝わった」という感想が多く、伝えようとするその経過や努力の大切さを学んだ。また、「翻訳家になりたい」という具体的な目標を持つ生徒がいるなど、長期的な将来設計に役立てられている。																																
<table><tr><td></td><td>期 日</td><td>研 修 内 容</td></tr><tr><td>結団式 第1回</td><td>5/8（金） ※保護者参加</td><td>市長・団長あいさつ、団員紹介、激励・決意のこたば 事業概要説明、旅行説明</td></tr><tr><td>第2回</td><td>5/17（日）</td><td>班別研修、学校交流プレゼン準備、英会話レッスン</td></tr><tr><td>第3回</td><td>6/13（土）</td><td>ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン練習</td></tr><tr><td>第4回</td><td>6/28（日）</td><td>豪州の生活講話、英会話レッスン、合唱練習</td></tr><tr><td>第5回</td><td>7/17（金） ※保護者参加</td><td>旅行説明、プレゼンリハーサル</td></tr><tr><td>海外研修</td><td>7/26（日）～8/1（土）</td><td>現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ 他</td></tr><tr><td>第6回</td><td>8/17（月）</td><td>研修の振り返りとまとめ、壁新聞作成</td></tr><tr><td>第7回 解団式</td><td>9/13（日） ※保護者参加</td><td>研修報告準備 教育長・団長あいさつ、研修報告、団員代表のこたば</td></tr></table>							期 日	研 修 内 容	結団式 第1回	5/8（金） ※保護者参加	市長・団長あいさつ、団員紹介、激励・決意のこたば 事業概要説明、旅行説明	第2回	5/17（日）	班別研修、学校交流プレゼン準備、英会話レッスン	第3回	6/13（土）	ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン練習	第4回	6/28（日）	豪州の生活講話、英会話レッスン、合唱練習	第5回	7/17（金） ※保護者参加	旅行説明、プレゼンリハーサル	海外研修	7/26（日）～8/1（土）	現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ 他	第6回	8/17（月）	研修の振り返りとまとめ、壁新聞作成	第7回 解団式	9/13（日） ※保護者参加	研修報告準備 教育長・団長あいさつ、研修報告、団員代表のこたば
	期 日	研 修 内 容																														
結団式 第1回	5/8（金） ※保護者参加	市長・団長あいさつ、団員紹介、激励・決意のこたば 事業概要説明、旅行説明																														
第2回	5/17（日）	班別研修、学校交流プレゼン準備、英会話レッスン																														
第3回	6/13（土）	ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン練習																														
第4回	6/28（日）	豪州の生活講話、英会話レッスン、合唱練習																														
第5回	7/17（金） ※保護者参加	旅行説明、プレゼンリハーサル																														
海外研修	7/26（日）～8/1（土）	現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ 他																														
第6回	8/17（月）	研修の振り返りとまとめ、壁新聞作成																														
第7回 解団式	9/13（日） ※保護者参加	研修報告準備 教育長・団長あいさつ、研修報告、団員代表のこたば																														
評 価																																
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																														
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																
研修の成果を生かす機会の提供等が必要である。			➡	学校での体験発表の場を設定できるよう関係機関への働きかけを行う。 また、広報誌等を活用し、本事業の成果を発表する機会を増やす。																												
5 学識経験者の意見																																
研修の成果を、学校行事、教科教育、「総合的な学習の時間」など、学校教育の様々な場面で活かせる活動の在り方も検討する必要がある。																																

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	地域に根ざした文化芸術の推進
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進		担当課 社会教育課

1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

26「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチ（※）ほか各種芸術鑑賞会」
（※）音楽アウトリーチ・・・プロのアーティストを学校等に派遣して、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う音楽の普及活動。

事業概要及び目標

優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。
特に、平成27年度は合併10周年を機会として、例年よりも各種事業を充実させる。

3 平成27年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ることができ、地域文化の創造に努められた。また、市民芸術祭や講演会などの各種合併10周年記念事業を実施し、活動を発表する機会や学びの機会を市民に提供し、文化芸術の推進を図ることができた。

社会教育課実施事業（17事業） 参加人数 10,126人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
第78回河北美術展栗原展	5/19～24	1,729人	宮城県芸術祭巡回絵画・書道展	10/27～11/1	332人
小学校1年生～4年生芸術鑑賞会	7/8～9	1,792人	小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会	11/19	912人
合併10周年記念栗原市民芸術祭【ホールの部】	8/2	639人	美術ワークショップ「ユラユラ人形を操ろう」	11/27	52人
仙台フィルマイトウンコンサートin栗原	8/30	463人	心なきざむ 文化講演会「講師 茂木 健一郎 氏」	12/12	872人
合併10周年記念講演会	9/19	102人	けやきステージ2015 藤原功次郎トロンボーンコンサート	1/24	134人
ジャズコロボ栗原2015	10/4	681人	第4回栗原地区吹奏楽祭	2/7	473人
宮城県巡回小劇場	10/7	346人	音楽アウトリーチ事業「佐藤友紀アウトリーチコンサート」	2/8～9	258人
大垣市との俳句交流事業	9/18～19	9人	第9回栗原市写真展	2/27～3/6	749人
青少年劇場小公演	10/19～21	583人			

栗原文化会館実施事業（10事業） 参加人数 8,494人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
栗原市合併10周年記念公演ミュージカル『広い宇宙の中で』	5/30	538人	第28回 栗原書道展	10/10～10/18	325人
第14回 みてけらいん美術展	7/4～7/12	488人	栗原市合併10周年記念公演 水森かおりコンサート	10/31	1,220人
栗原市合併10周年記念 市民芸術祭【展示の部】	7/28～8/2	511人	第28回 栗原市美術展	11/10～11/15	375人
第19回 栗原市工芸展	8/4～8/9	264人	栗原市合併10周年記念公演 海上自衛隊横須賀音楽隊コンサート	11/23	850人
第51回 宮城水彩展「栗原展」	8/28～9/6	455人	寄贈作品の常設展示（年2回作品入替展示）	※	3,468人

※休館日を除く通年展示

若柳総合文化センター実施事業（5事業） 参加人数 2,179人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
親子芸術鑑賞会「ブレイメンの音楽隊&ミニコンサート」	7/3	511人	わかやなぎ音楽祭	1/23	390人
ダンスフェスティバル2015	8/30	573人	ふるさと劇場～民話とわらべ歌～	3/6	243人
劇団四季ファミリーミュージカル「わかしわかしづきがきた」	9/22	462人			

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）

B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）

C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）

D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成28年度に向けた課題・今後の方針

平成27年度は、合併10周年記念事業により実施事業を増やしたが、平成28年度以降は事業内容を精査する必要がある。

➡

恒例行事として定着してきた感があるが、スクラップ・アンド・ビルド方式を視野に入れながら、新規事業も模索する。

5 学識経験者の意見

多彩な取り組みが見られるが、世代別のニーズに偏りが感じられる。20代・30代の市民ニーズの掘り起こしも一層必要と思われる。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進																																																																																													
	具体的施策	文化財の保存・継承活用の推進										担当課	文化財保護課																																																																																				
1 目的																																																																																																	
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。																																																																																																	
2 具体的事業																																																																																																	
施策を構成する事業																																																																																																	
27「埋蔵文化財発掘調査事業」																																																																																																	
事業概要及び目標																																																																																																	
埋蔵文化財発掘調査を行い、遺跡の解明、遺跡の保存又は記録保存を行う。また、発掘調査現地説明会を実施し、文化財の啓蒙を図る。																																																																																																	
○目標																																																																																																	
・開発事業による協議等 随時																																																																																																	
・埋蔵文化財確認調査等 随時																																																																																																	
・伊治城跡発掘調査事業（国庫補助） 平成27年11月～12月																																																																																																	
・下萩沢遺跡発掘調査受託事業 平成27年5月～9月																																																																																																	
・清水山Ⅰ遺跡発掘調査 平成27年4月～平成28年3月																																																																																																	
・大穴山遺跡発掘調査 平成27年11月～平成27年12月																																																																																																	
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																																																																	
取り組みと成果																																																																																																	
埋蔵文化財包蔵地における開発行為等に伴い、現状保存や記録保存を行い、これらの調査成果を公表することにより、市民の埋蔵文化財に対する理解を得ることができた。また、埋蔵文化財包蔵地及び隣接地において道路整備・市設置型合併処理浄化槽等の公共工事や民間の宅地・工場造成、集合住宅、個人住宅等の開発事業に伴い、発掘届（一般）、発掘通知（公共機関）を受け、県教育委員会の指示のもと、関係課や事業主と「遺跡と開発事業の係わり」について、協議や指導等を行い、工事立会や確認調査及び事前調査を行った。伊治城跡発掘調査事業（国庫補助）は、第6次5ヵ年計画の2年目の発掘調査を実施したほか、大型店舗建設に伴う発掘調査受託事業として下萩沢遺跡発掘調査、瀬峰地区幼保一体施設建設に伴う清水山Ⅰ遺跡発掘調査を実施した。																																																																																																	
○協議等件数																																																																																																	
単位：件																																																																																																	
<table><tr><th>項目</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>合計</th></tr><tr><td>埋蔵文化財協議</td><td>7</td><td>9</td><td>7</td><td>11</td><td>8</td><td>13</td><td>8</td><td>8</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>11</td><td>91</td></tr><tr><td>発掘届</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td><td>5</td><td>2</td><td>4</td><td>0</td><td>4</td><td>4</td><td>43</td></tr><tr><td>発掘通知</td><td>1</td><td>6</td><td>3</td><td>4</td><td>9</td><td>7</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td>45</td></tr><tr><td>工事立会報告</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>史跡現状変更</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr></table>														項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	埋蔵文化財協議	7	9	7	11	8	13	8	8	3	4	2	11	91	発掘届	4	2	6	4	2	6	5	2	4	0	4	4	43	発掘通知	1	6	3	4	9	7	3	2	4	0	3	3	45	工事立会報告	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	史跡現状変更	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	4
項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計																																																																																				
埋蔵文化財協議	7	9	7	11	8	13	8	8	3	4	2	11	91																																																																																				
発掘届	4	2	6	4	2	6	5	2	4	0	4	4	43																																																																																				
発掘通知	1	6	3	4	9	7	3	2	4	0	3	3	45																																																																																				
工事立会報告	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2																																																																																				
史跡現状変更	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	4																																																																																				
○埋蔵文化財確認調査等の主な実績																																																																																																	
<table><tr><th>遺跡名</th><th>地区名</th><th>開発目的</th><th>調査内容</th><th>調査期間</th><th>備考</th></tr><tr><td>清水山Ⅰ遺跡</td><td>瀬峰</td><td>幼保施設建設</td><td>確認調査</td><td>5月～3月</td><td>栗原市</td></tr><tr><td>下萩沢遺跡</td><td>築館</td><td>店舗建設</td><td>確認調査</td><td>5月～9月</td><td>民間</td></tr><tr><td>浦山館跡</td><td>志波姫</td><td>工場造成</td><td>確認調査</td><td>7月～8月</td><td>民間</td></tr><tr><td>大穴山遺跡</td><td>花山</td><td>林道整備工事</td><td>確認調査</td><td>11月～12月</td><td>栗原市</td></tr></table>														遺跡名	地区名	開発目的	調査内容	調査期間	備考	清水山Ⅰ遺跡	瀬峰	幼保施設建設	確認調査	5月～3月	栗原市	下萩沢遺跡	築館	店舗建設	確認調査	5月～9月	民間	浦山館跡	志波姫	工場造成	確認調査	7月～8月	民間	大穴山遺跡	花山	林道整備工事	確認調査	11月～12月	栗原市																																																						
遺跡名	地区名	開発目的	調査内容	調査期間	備考																																																																																												
清水山Ⅰ遺跡	瀬峰	幼保施設建設	確認調査	5月～3月	栗原市																																																																																												
下萩沢遺跡	築館	店舗建設	確認調査	5月～9月	民間																																																																																												
浦山館跡	志波姫	工場造成	確認調査	7月～8月	民間																																																																																												
大穴山遺跡	花山	林道整備工事	確認調査	11月～12月	栗原市																																																																																												
○市内遺跡発掘調査事業（国庫補助事業）																																																																																																	
・史跡伊治城跡：築館字城生野唐崎地内約550㎡、調査期間11月～12月																																																																																																	
○発掘調査現地説明会																																																																																																	
<table><tr><th>遺跡名</th><th>地区名</th><th>開催日</th><th>参加者</th></tr><tr><td>清水山Ⅰ遺跡</td><td>瀬峰</td><td>H27.11.13（金）</td><td>瀬峰小学校5・6年生等 約100名</td></tr><tr><td>史跡伊治城跡</td><td>築館</td><td>H27.12.23（水）</td><td>地域住民等 71名</td></tr></table>														遺跡名	地区名	開催日	参加者	清水山Ⅰ遺跡	瀬峰	H27.11.13（金）	瀬峰小学校5・6年生等 約100名	史跡伊治城跡	築館	H27.12.23（水）	地域住民等 71名																																																																								
遺跡名	地区名	開催日	参加者																																																																																														
清水山Ⅰ遺跡	瀬峰	H27.11.13（金）	瀬峰小学校5・6年生等 約100名																																																																																														
史跡伊治城跡	築館	H27.12.23（水）	地域住民等 71名																																																																																														
評価																																																																																																	
B																																																																																																	
A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																																																																	
B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																																																																	
C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																																																																																	
D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																																																																	
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																																																																	
市民の文化財愛護意識の高揚を図る必要がある。➡近隣の学校や地域住民等を対象とした現地説明会等を積極的に開催する。																																																																																																	
5 学識経験者の意見																																																																																																	
特に問題は感じられない。																																																																																																	

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進		
	具体的施策	文化財の保存・継承活用の推進			担当課	文化財保護課
1 目的						
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。						
2 具体的事業						
施策を構成する事業						
28「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」						
事業概要及び目標						
伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての活動を支援するとともに史跡・天然記念物等保存活動に対する支援策として、補助金を交付する。						
3 平成27年度の取り組みと自己評価						
取り組みと成果						
伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人並びに史跡・天然記念物等の保護活動を行う個人・団体に対し補助金を交付し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や、教室・講習会・発表会を行う会場使用料などの負担を軽減し、伝承活動を支援することができた。						
○補助金の交付状況						
・史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金 1 団体 2 個人 1 7 8 , 5 0 0 円						
・無形文化財保存伝承に対する補助金 1 個人 9 5 , 0 0 0 円						
・無形民俗文化財保存団体に対する補助金 1 3 団体 5 2 1 , 5 5 0 円						
○無形文化財・民俗文化財の指定件数						
平成 28 年 3 月 31 日現在						
大分類		中分類	小分類	国指定	県指定	市指定 計
無形文化財	芸能					0
	工芸技術				1	1 2
	小計			0	1	1 2
民俗文化財	有形民俗文化財					4 4
	無形民俗文化財	風俗慣習			1	3 4
		民俗芸能	1	1	31	33
		民俗技術				0
	小計			1	2	38 41
評 価						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）					
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）					
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）					
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針						
各団体の実情等を把握した上で、「必要かつ効果的な支援」を行う必要がある。				➡	各団体の活動状況や実情をアンケート等により調査を行い、現状を把握し、適切な支援を行っていく。	
5 学識経験者の意見						
特に問題は感じられない。						

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進																																	
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実			担当課 社会教育課																																
1 目的																																					
スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。 （注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。																																					
2 具体的事業																																					
施策を構成する事業																																					
29「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」																																					
事業概要及び目標																																					
市民の健康増進・体力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携し、スポーツ大会等を開催する。市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を進める。																																					
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																					
取り組みと成果																																					
○スポーツ大会等の実施状況 ・参加者の健康増進及び体力向上を図るため、各種大会等を開催した。 ・今年度、新たに（公財）日本陸上競技連盟の公認を取得した栗原市ハーフマラソンコースを会場に、「第1回栗原ハーフマラソン大会」を開催。大会の運営には、開催地区の方々や各種団体の協力をいただき、「する」楽しさだけでなく「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさの意識づけを行った。また、市外からも多くの皆さんに来市していただき、地域の活性化とスポーツ交流人口の拡大につながった。																																					
<table><tr><th rowspan="2">事業名</th><th rowspan="2">期 日</th><th rowspan="2">対象者</th><th colspan="2">参加者数</th></tr><tr><th>H27</th><th>H26</th></tr><tr><td>東北中学校卓球大会</td><td>5/23～24</td><td>東北地方の中学生</td><td>750 人</td><td>730 人</td></tr><tr><td>小学生陸上競技交流大会</td><td>6/14</td><td>市内小学校4年生以上</td><td>375 人</td><td>394 人</td></tr><tr><td>くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会</td><td>7/25～26</td><td>県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生</td><td>855 人</td><td>727 人</td></tr><tr><td>栗原ハーフマラソン大会</td><td>11/8</td><td>幼児～一般</td><td>1,015 人</td><td>485 人</td></tr><tr><td>体力・運動能力調査</td><td>6月～10月</td><td>市内在住20歳～79歳</td><td>42 人</td><td>9 人</td></tr></table> ※栗原ハーフマラソン大会は平成27年度から実施。平成26年度は市民マラソンの実績。						事業名	期 日	対象者	参加者数		H27	H26	東北中学校卓球大会	5/23～24	東北地方の中学生	750 人	730 人	小学生陸上競技交流大会	6/14	市内小学校4年生以上	375 人	394 人	くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7/25～26	県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生	855 人	727 人	栗原ハーフマラソン大会	11/8	幼児～一般	1,015 人	485 人	体力・運動能力調査	6月～10月	市内在住20歳～79歳	42 人	9 人
事業名	期 日	対象者	参加者数																																		
			H27	H26																																	
東北中学校卓球大会	5/23～24	東北地方の中学生	750 人	730 人																																	
小学生陸上競技交流大会	6/14	市内小学校4年生以上	375 人	394 人																																	
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7/25～26	県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生	855 人	727 人																																	
栗原ハーフマラソン大会	11/8	幼児～一般	1,015 人	485 人																																	
体力・運動能力調査	6月～10月	市内在住20歳～79歳	42 人	9 人																																	
<table><tr><th>事業名</th><th>期 日</th><th>対象者</th><th colspan="2">観戦者数</th></tr><tr><td>2015ホッケー日本リーグ<女子>宮城シリーズ</td><td>9/26～27</td><td>ホッケー日本リーグ所属 女子10チーム</td><td>1,608 人</td><td>1,000 人</td></tr></table> ※栗原市支援事業（平成26年度は男子日本リーグ開催）						事業名	期 日	対象者	観戦者数		2015ホッケー日本リーグ<女子>宮城シリーズ	9/26～27	ホッケー日本リーグ所属 女子10チーム	1,608 人	1,000 人																						
事業名	期 日	対象者	観戦者数																																		
2015ホッケー日本リーグ<女子>宮城シリーズ	9/26～27	ホッケー日本リーグ所属 女子10チーム	1,608 人	1,000 人																																	
評価																																					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																				
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																					
「楽・楽・楽スポーツ」のうち、「みる」楽しさと「ささえる」楽しさを体験する機会が少ない。			➡	ハーフマラソン大会をはじめ、各種スポーツ事業を開催し、多くの方々が観客やボランティアとして参加できる機会の提供に努める。																																	
5 学識経験者の意見																																					
ハーフマラソンの参加者数が大幅に増加したことは、大きく評価すべきである。この点から、開催回数や競技内容などの一層の発展が期待される。																																					

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進																																														
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課																																														
1 目的																																																		
スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。 （注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。																																																		
2 具体的事業																																																		
施策を構成する事業																																																		
30「宮城ヘルシー2015ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」																																																		
事業概要及び目標																																																		
子どもから高齢者まで多くの方々が気軽に、楽しく参加できるよう種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かした一大スポーツ・レクリエーションの祭典として開催する。																																																		
3 平成27年度の取り組みと自己評価																																																		
取り組みと成果																																																		
スポーツを通して地域住民の親睦を深めるとともに、生涯スポーツの振興を図ることができた。																																																		
【開催日】8月23日（日） 【会 場】栗駒総合体育館、栗駒野球場、サン・スポーツランド栗駒 【種目・参加人員】本大会・予選会の参加者総数 5,323人																																																		
大会参加者数			地区予選会参加者数																																															
<table><tr><th>種 目</th><th>チーム数</th><th>参加人員</th></tr><tr><td>ソフトボール</td><td>9</td><td>248 人</td></tr><tr><td>家庭バレーボール</td><td>9</td><td>261 人</td></tr><tr><td>家庭バレーボール（シニア）</td><td>7</td><td>185 人</td></tr><tr><td>ペタンク（シニア）</td><td>9</td><td>101 人</td></tr><tr><td>ペタンク（フリー）</td><td>10</td><td>105 人</td></tr><tr><td>グラウンドゴルフ</td><td>9</td><td>84 人</td></tr><tr><td>健康づくりコーナー</td><td></td><td>48 人</td></tr><tr><td>ニュースポーツ体験</td><td></td><td>30 人</td></tr><tr><td>合計</td><td>53</td><td>1,062 人</td></tr></table>			種 目	チーム数	参加人員	ソフトボール	9	248 人	家庭バレーボール	9	261 人	家庭バレーボール（シニア）	7	185 人	ペタンク（シニア）	9	101 人	ペタンク（フリー）	10	105 人	グラウンドゴルフ	9	84 人	健康づくりコーナー		48 人	ニュースポーツ体験		30 人	合計	53	1,062 人	<table><tr><th>種 目</th><th>参加人員</th></tr><tr><td>ソフトボール</td><td>1,985 人</td></tr><tr><td>家庭バレーボール</td><td>1,526 人</td></tr><tr><td>家庭バレーボール（シニア）</td><td>30 人</td></tr><tr><td>ペタンク（シニア）</td><td>65 人</td></tr><tr><td>ペタンク（フリー）</td><td>118 人</td></tr><tr><td>グラウンドゴルフ</td><td>537 人</td></tr><tr><td>合計</td><td>4,261 人</td></tr></table>		種 目	参加人員	ソフトボール	1,985 人	家庭バレーボール	1,526 人	家庭バレーボール（シニア）	30 人	ペタンク（シニア）	65 人	ペタンク（フリー）	118 人	グラウンドゴルフ	537 人	合計	4,261 人
種 目	チーム数	参加人員																																																
ソフトボール	9	248 人																																																
家庭バレーボール	9	261 人																																																
家庭バレーボール（シニア）	7	185 人																																																
ペタンク（シニア）	9	101 人																																																
ペタンク（フリー）	10	105 人																																																
グラウンドゴルフ	9	84 人																																																
健康づくりコーナー		48 人																																																
ニュースポーツ体験		30 人																																																
合計	53	1,062 人																																																
種 目	参加人員																																																	
ソフトボール	1,985 人																																																	
家庭バレーボール	1,526 人																																																	
家庭バレーボール（シニア）	30 人																																																	
ペタンク（シニア）	65 人																																																	
ペタンク（フリー）	118 人																																																	
グラウンドゴルフ	537 人																																																	
合計	4,261 人																																																	
評 価																																																		
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																
4 平成28年度に向けた課題・今後の方針																																																		
若年層が参加できるような種目が必要である。			小学生と保護者を対象としたニュースポーツ体験コーナー企画を継続し、参加者の増加を図る。																																															
5 学識経験者の意見																																																		
特に問題は感じられない。																																																		

3 学識経験者からの意見（総評）

（吉田 剛氏）

（永井 伸幸氏）

「創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援」（１～５）

それぞれの取り組みが一定の成果を挙げている。特に幼児へのサービスの充実は児童数の増加や入学後の円滑な学校生活への移行につながることを期待できる。

「学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成」（６～１０）

様々な事業を通して、学力向上を図っていきたいという市としての意思が感じられる。各事業の参加者への影響・効果を丁寧に見ていくことも必要であろう。

「自らの命を守るための防災教育の推進」（１１～１２）

小中学校では主任研修、幼稚園では避難訓練が取り組みとして挙げられている。それぞれの成果をお互いに共有できるようにしていただきたい。

「いじめを許さない学校づくりの推進」（１３～１４）

いじめに対して市としての共通認識を持って今後も取り組んでいただきたい。教室以外の「居場所づくり」も大切で、相談員の役割が重要となるものと思われる。

「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道德教育及び生徒指導、特別支援教育の推進」（１５～１６）

子どもの「志」を育む取り組み、そこに参加できない子どもを支える取り組み、いずれも大切であるので、今後もその両面から取り組んでいただきたい。

「健やかな身体を培う体育・健康教育の充実」（１７）

土日の運動の実施割合が低いとの課題に対して、学校教育における運動の楽しみ方について、十分に配慮して指導する工夫が求められる。他方で、一般成人も含めた、社会教育における運動に関わるイベントの充実も求められる。

「生涯にわたる学習機会の提供（学びの連続性）」及び「生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実」（１８～２４）

経年的な参加者数などの変化から、次に、数を増やす取り組みの工夫について、課題設定されている。その際に、世代的な動向など、数の増減の社会的な背景や要因なども検討する余地もある。また、取り組みの質的な課題も一層追究する余地もあり、学校教育との有機的な連携も強める必要がある。

「国際理解のための学習や事業の推進」(25)

研修の成果を、学校行事、教科教育、「総合的な学習の時間」など、学校教育の様々な場面で活かせる活動の在り方も検討する必要がある。

「文化芸術活動の支援・地域に根差した文化芸術の推進」(26)

多彩な取り組みが見られるが、世代別のニーズに偏りが感じられる。20代・30代の市民ニーズの掘り起こしも一層必要と思われる。

「文化財の保存・継承活用の推進」(27～28)

特に問題は感じられない。

「スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実」(29～30)

ハーフマラソンの参加者数が大幅に増加したことは、大きく評価すべきである。この点から、開催回数や競技内容などの一層の発展が期待される。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価（以下「点検・評価」と記載）を実施した。学識経験者として宮城教育大学のお二人の先生からいただいたご意見を踏まえて、今後の取り組みを次のようにまとめた。

「創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援」

きめ細かな教育活動を推進するため、35人学級の編制のための任期付市費負担教員の採用、少人数指導教諭・補助員の配置による学校・学級への支援、小・中学校の教育環境整備を行うための再編、幼稚園3年保育の完全実施に向けた施設の充実、幼児教育の充実と子育て支援の両立を図るための幼保一体施設の整備など、一定の成果を上げているとの評価をいただいた。

引き続き、市独自の学校支援を実施し、また、平成28年4月から市内全ての幼稚園で3年保育と預かり保育を実施することとなり、これまで以上に充実した幼児教育に努め、小学校で学ぶ土台づくりに取り組むとともに、幼稚園での預かり保育の体制整備をさらに進めてまいりたい。

「学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成」

学力向上を図るための各事業への取り組みに評価をいただいた。

今後、平成26年度に開所した栗原市教育研究センターを拠点に、教職員の指導力向上に向けた研修会、小・中学校へ導入を進めているタブレット端末を使った授業づくりを進めるための、ICT活用能力の向上に向けた研修会、さらには今後、新しい学習指導要領の実施に伴う、道徳や小学校外国語（5・6年）の教科化に向けた研修事業等を実施し、教職員が安心して移行・導入できるように研修内容を充実させてまいりたい。

また、教職員が集中して教育に臨む環境づくりへの支援と、Q-U（学級生活満足度尺度）調査の結果を、やる気があり・居心地のよい学級集団づくりへと活用を図り、学府づくりはら塾や各種学習会の開催、英語教育の充実等、子どもたちの学習習慣の継続的な形成を推進するとともに、参加児童生徒の学習成果を継続的に検証し、学力の向上及び学府づくりはらの実現を目指してまいりたい。

「自らの命を守るための防災教育の推進」

小・中学校での主任研修、幼稚園での避難訓練について、それぞれの成果をお互いに共有できるようにしていただきたいとのご意見をいただいた。

幼稚園、小学校、中学校が災害発生時に安全で円滑な避難行動を行うことができるよう、今後は、宮城県教育委員会の副読本の効果的な活用の仕方や実践についての研修を深めるとともに、防災マニュアルの検証と見直しを行い、栗原市の災害の教訓を元に作成した「栗駒山麓ジオパーク副読本」などの教材を活用しながら、防災教育や防災訓練を充実してまいりたい。

「いじめを許さない学校づくりの推進」

いじめに対して、市としての共通認識を持って今後も取り組んでいただきたいとのご意見をいただいた。

全ての児童生徒が安心して楽しく学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなることを目指すため、栗原市いじめ防止基本方針を策定し、市内幼稚園長、小・中学校長を対象とした研修会を開催し、いじめ防止に関する情報の共有に努めている。今後は、その重大事案が発生した際の初動体制として、どのような対応が必要であるか、「緊急対応の手引き」を作成し、教育委員会、学校、保護者等が連携して対応できるように進めてまいりたい。

「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道德教育及び生徒指導、特別支援教育の推進」

児童生徒の意欲を高める取り組みと、適応に困難を抱える児童生徒を支援する取り組みの両面に評価をいただいた。

今後も、児童生徒の意欲を高める取り組みとして、小・中学校における異校種連携及び、地域連携を特色とした志教育の継続を支援し、一人一人が夢と希望を持った人間性豊かな人材の育成を推進してまいりたい。また、学校適応に困難を抱える児童生徒に対しては、早期からの支援体制の確立と、個別の教育支援計画・指導計画をはじめとする、柔軟できめ細かな一貫した支援体制の構築を進めてまいりたい。

「健やかな身体を培う体育・健康教育の充実」

小学生は、土日の運動実施の割合が全国平均を大きく下回っているという結果があり、学校以外での運動の場を確保する必要があるという課題に対し、学校教育における運動の楽しみ方について、十分に配慮して指導する工夫が求められること、また、一般成人も含めた、社会教育における運動に関わるイベントの充実も求められるというご意見をいただいた。

今後は、各学校の運動習慣における課題を明確にした上で、楽しさを味わえる体育の授業づくりの工夫と、運動する場の設定や取り組ませ方に工夫を凝らし、日頃から運動に親しむ環境を整えることで、一般成人を含めたスポーツ大会の充実を図ってまいりたい。

「生涯にわたる学習機会の提供（学びの連続性）」及び「生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実」

幼児から高齢者まで、様々な年代・世代を対象とした各種教室等の開催には、毎年、工夫と改善を図っているが、世代的な動向など、数の増減の社会的な背景や要因などの検討や取り組みの質的な課題の一層の追求、また、学校教育との有機的な連携も強める必要があるとのご意見をいただいた。

今後は、学校教育との連携強化を図るとともに、市民の多様なニーズへの柔軟な対応や人的資源の活用を図り、各年代に応じた事業の充実に努めてまいりたい。

「国際理解のための学習や事業の推進」

研修の成果を、学校行事、教科教育、「総合的な学習の時間」など、学校教育の様々な場面で活かせる活動の在り方も検討する必要があるとのご意見をいただいた。

今後も、海外研修を実施し、文化の違いや異なる習慣を持った人々の理解を深め、国際的視野を持った人材の育成に努めるとともに、研修成果をさらに拡充させるため、学校での体験発表の場の設定について関係機関へ働きかけを行ってまいりたい。

「文化芸術活動の支援・地域に根差した文化芸術の推進」

多彩な取り組みが見られるが、世代別のニーズに偏りが感じられ、20代・30代の市民ニーズの掘り起こしも一層必要とのご意見をいただいた。

今後、事業内容を精査する必要がある、スクラップ・アンド・ビルドにより、推進する事業や廃止する事業及び、新規事業など検討してまいりたい。

「文化財の保存・継承活用の推進」

特に問題は感じられないとのご意見をいただいた。

引き続き、伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対して、継承活動への適切な支援を行い、後継者育成を図るとともに、先人たちが遺した貴重な文化的財産である伊治城跡等、遺跡の解明、保存又は記録保存や発掘調査現地説明会を開催し、市民の埋蔵文化財に対する啓蒙に努めてまいりたい。

「スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実」

合併10周年記念事業として開催した第1回栗原ハーフマラソン大会については、栗原市民マラソン大会からの大幅な参加者数の増加について評価をいただいた。

第2回栗原ハーフマラソン大会や各種スポーツ大会において、参加者の年代やニーズを的確にとらえ、市民の健康増進と体力向上をめざし、市民が「楽・楽・楽スポーツ（「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさ）」を体現できるよう、市民と地域、スポーツ団体との連携・協力を図り、市民の健康増進に努めてまいりたい。

今回の「点検・評価」の結果を市議会はじめ、市民の皆さまに報告・公表することにより、常に事業の目的・効果・課題・改善策を常に意識しながら、更なる教育行政の推進と事業の充実に努めてまいりたい。